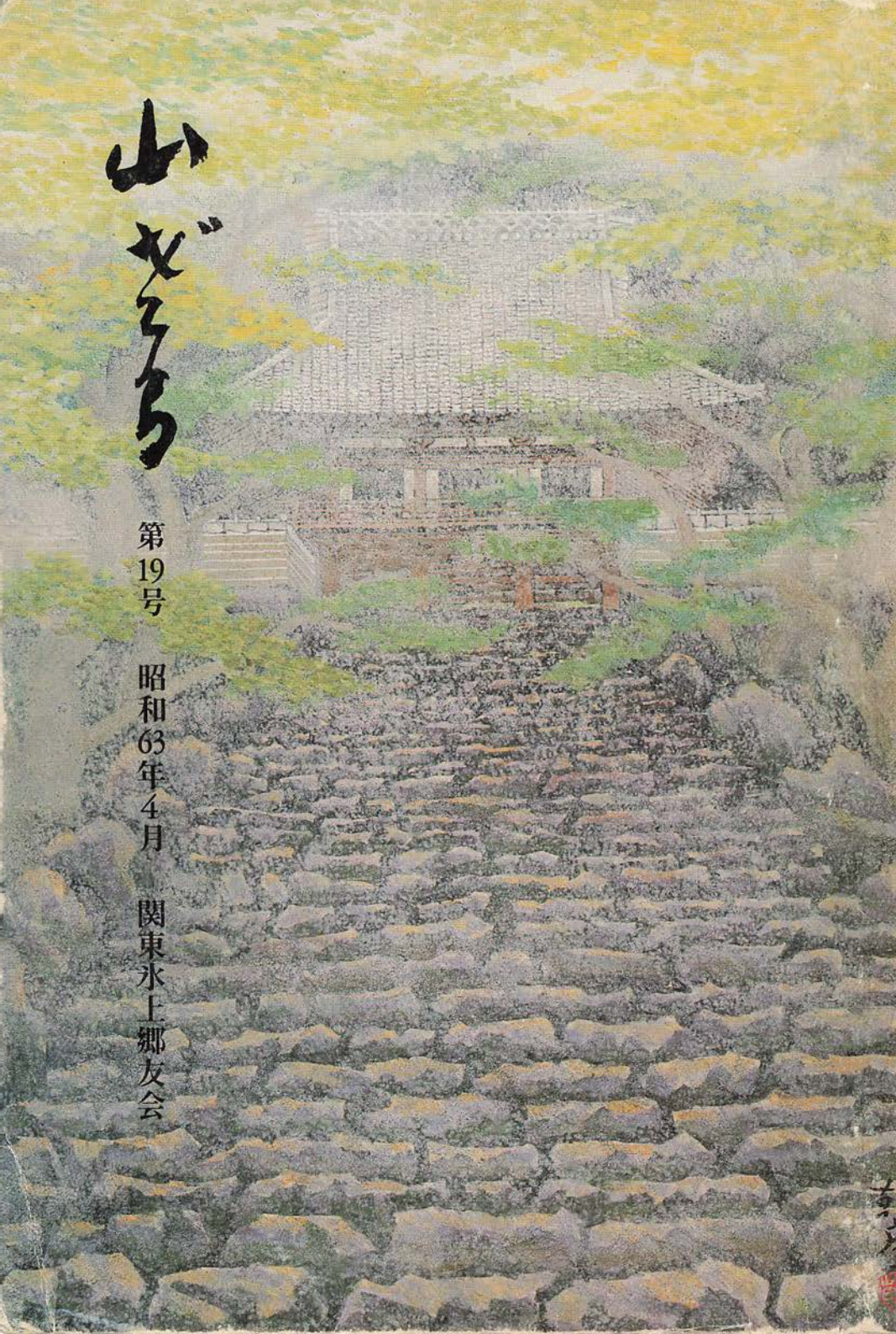


山ざくら

第19号

昭和63年4月

関東氷上郷友会

渡辺紙工業株式会社

取締役社長　岡崎昌三

本　　社	大阪市城東区今福西３丁目２番24号 Tel　939—1281(代)
東京支店工場	東京都足立区中央本町５丁目22番12号 Tel　849—6611(代)
〃　関宿工場	千葉県東葛飾郡関宿町大字台町2192番 Tel　0471—96—1721(代)
東京支店営業所	東京都台東区柳橋１丁目20番４号〈久月ビル８F〉 Tel　861—2331(代)
名古屋支店工場	名古屋市西区又穂町３丁目13番地 Tel　521—8111(代)
大阪支店　工場	大阪市城東区今福西３丁目２番24号 Tel　939—1281(代)
九州支店　工場	福岡県粕屋郡久山町猪野小柳884番１号 Tel　09297—6—2211(代)

渡辺製袋株式会社

代表取締役　前田次郎

本　　社	大阪市城東区今福西３丁目２番24号 Tel　939—1281(代)
東京支店	東京都台東区柳橋１丁目20番４号〈久月ビル８F〉 Tel　861—2331(代)
大阪支店	大阪市城東区今福西３丁目２番24号 Tel　939—1281(代)
藤岡工場	栃木県下都賀郡藤岡町内町4938番地 Tel　028262—3321(代)
兵庫工場	兵庫県加古郡稲美町蛸草1438—１番地 Tel　0794—95—0257(代)

山ざる　第19号　目次

表紙絵……常岡幹彦画・高源寺……昭和62年作
会長をお受けして・伴仲会長を悼む……村上末吉…2
年には勝てぬ……小田知尊…5
郷土の生んだ教育界の偉才　故小林武治氏を悼む……
谷垣正雄…6
西山敬次郎君の急逝を悼む……足立源治…7
訃報……9
昭和六十二年度総会・祝寿会・懇親会……10
軽くなった副会長の座……足立源治…16
中国人とふるさと……渡辺隆男…17
ふるさとの言葉……足立源治…18
北摂・丹波の祭典……21
悔なき我が人生に教えられる……足立三治…24
思い出……大西俊治…25
小学生のころ……荻野一雄…27
八十年の人生をふりかえる……藤田かね…28
丹波への思い……小寺確郎…29
むかしの柏原音頭……志村勝郎…32
宇垣大将参内の車をとめた兄……志村勝郎…33
六〇歳代半ばの手習い……志村勝郎…35
「ふみよ会」について……池上亘泰…39
ブラックジャックの思い出……岡　吉明…41
思い出すこと……安原三智子…43
青春虚実―思い出すこと……田中篤郎…46
関東氷上郷友会会則……49
会計報告書……50
寄付金報告……51
ゴルフ同好会報告……52
氷上囲碁会報告……53
村上末吉氏の個展……54
常岡幹彦氏個展―玄に向って―……54
可部美智子さんに文部大臣奨励賞……56
私の刺繍作品展……篠原よね子…57
細見綾子さんの色紙……59
'87丹波の動き……60
お便り・短信……71
広告……74
関東氷上郷友会・会員名簿……巻末

会長をお受けして

関東氷上郷友会
会長　村上末吉

昨年の総会で役員改選があり、会長に選任されました。よろしくお願い申しあげます。

総会前の理事会で会長候補を内定するわけですが、私は不適任だと申しあげたのですが、皆さんが順序だからといって無理矢理押し上げられたというのが実情です。胴上げのようなもので抵抗する術がなく、理事会はそうであっても総会で誰方かがと一縷の望みを抱いていたのですが、潰え去り遂に決定されてしまいました。

決定された以上はやらせて頂くしかないのでして、会長の役を次のように位置づけすることにしたいと思っています。

会長をピラミッド型の頂点というと、とても私には耐えられませんので、会員全員を横並列に並べさせて頂き、誰も同列なんだ、その中に誰か世話役が必要なので、それをお前がやれというようにすると気分的にずうっと楽になれる、それならできそうです。

お世話役をお受けする以上は、本会の主旨である親睦の実を挙げるため、老若、男女等の差はもちろんのこと、その他世の中のあらゆるしがらみを忘却して、丹波方言をまる出しで話ができる会にしたいと願っております。

なお皆さんから会費やご寄付をお預りするのですから、その会計も特に使途を含めて正確、厳重にして、一円の不明もないようにすべきだと思っております。会の財政は必ずしも豊かではありませんので、健全な運営ができるよう方策を実行することは大きな役割だと思っております。

ご承知のとおり、今年は郷里で『北摂・丹波の祭典＝ホロンピア'88』が開催されます。郷友の皆様もこういう好機にぜひともご帰郷いただき、旧交を温め、かつ新しい丹波をとくとご覧いただきますよう、おすすめする次第でございます。

伴仲前会長を悼む

いい会長を亡くしました。郷友会にとってぴったりの会長だっただけに残念でなりません。

細かい処まで気を遣って、活き活きした顔つきで、会のお世話をすることが「私の使命だ」と言わんばか

りの熱心さに、ほとほと感心したのは私独りではないでしょう。最も大きな事業は創立八十八周年記念大会でしょう。私は会長を助けたい一念で、無い知恵を絞ったつもりですが、係の皆さんのご尽力で、会長の面目は立ったようでして、にこにこ顔で「よかったね」とおっしゃった言葉がまだ脳裏にはっきり残っています。

ホロンピア帰郷の旅も陣頭にたって行くつもりのようでした。往復とも夜行バスで、丹波に二泊すると、四泊旅行が正味二泊でできるという案に固執された時は、さすが明治生まれの男の面目躍如たるものでした。「会長それは無茶ですよ。会長は元気すぎるからそんなことをおっしゃるのですよ」とたしなめると「そうかなァ」と納得いかないご様子でした。

そんなお元気な会長が、昭和六十二年十月四日、自ら運転してゴルフへ行かれる途中、蜘蛛膜下出血で倒れ、十月十三日に忽然としてこの世を去られました。夢ではないかと疑いました。入院されたことをお聞きしたとき「あの元気な会長だから必ず快くなられる」と信じ切っていたからです。青天の霹靂ということは現実社会に在り得ることを教えられた思いで、身辺とみに粛条たるを如何ともし難い心境です。

伴仲さんは明治三十九年十二月十六日春日町多利でお生れになり、春日部小学校高等科を経て、大正十三年関西商工学校建築科（現関西大倉高校）を卒業され、建築界に身を投じられました。大正十四年十九歳のとき単身上京され、幾多の苦難と経験を経られ、昭和十九年三十八歳で独立され、昭和二十四年四十三歳で春日建設（株）を設立、代表取締役社長に就任、業界では堅実な会社として名声高く、今日の繁栄を築かれました。

伴仲さんは上京後より郷友の方々と交流され、若い年で年配の方とつき合う苦労等、山ざる第十三号「氷上郷友会と私」の記事の中でご自身詳しく記述されていますので割愛させて頂きますが、愛郷心は人一倍強く、同郷先輩諸氏を尊敬し、自己啓発の糧とされた生粋の丹波人でした。

伴仲さんは郷友会だけでなく、麹町法人会副会長・理事、東京都建築士事務所協会千代田支部副支部長、東京商工会議所評議員、日建ユニオン東京事業協同組合理事長、同全国連合会副会長、ライオンズクラブ・ゾーンチェアマン等数多くの公職にも就かれ、丹波人の誠実さを発揮され、各界から人望を得ておられました。

会長の追悼は限りありませんが、どうか私達後輩を草葉の陰から見守って頂くと共に、安らかなご冥福をお祈りして拙筆を擱きます。

故　伴仲信次氏　（関東氷上郷友会々長）

昭和六十二年十月十三日　蜘蛛膜下出血のため、東京女子医大病院において逝去。行年満八十歳。

十月十四日、自宅で仮通夜、翌十五日に春日建設株式会社において通夜（写真上）の後同十六日密葬。葬儀は十月二十日築地本願寺において春日建設株式会社々葬（写真右）が行われ、郷友も多数参列して別れを惜んだ。

戒名・高峰院慈徳信道大居士。向島の長命寺に葬る。

年には勝てぬ

丹波新聞社社長　小田知尊

昭和五十九年の六月ごろだと思う。関東氷上郷友会会長の伴仲氏より電話があり、今年は当郷友会の創立八十八周年、米寿を迎えるに当り、総会に地元の方の多数参加を求めるため、直接お目にかかって頼みたく〇〇日そちらへ行く。ついでに貴地でゴルフをしたいので、ひかみカントリーにエントリーして欲しいと頼まれた。その後、当社にこられ「丹波新聞は創立以来読んでいる。郷土のことは貴紙を通じ精通している。関東氷上郷友会の総会には貴君も是非出席願いたい」と懇請された。お話を聞いていると、東京から丹波まで、奥さんと替わるがわる車を運転しながら来たことなど、年を感じさせない元気な方だった。先般その伴仲会長の訃報に接し、あの時より三年たっていると指折り数え、年の重みを改めて感じたことでした。謹んで御冥福を祈ります。

今回会長となられた村上末吉氏は私と同じく大路の出身で、私の弟（16才で死亡）と同級で、小・中学校より秀才の誉れ高い人であった。自分より年下の人のことはほとんど分からないのが普通であるが、氏はずば抜けていたので小学生のころの姿も印象に残っている。

また、今回副会長を受けられた足立源治君は、柏中で私と同級で、彼は青春の精力のはけ口を何処に向けたらよいのかと、はたから案じられる程、エネルギッシュな人で、勉強にスポーツに活躍されていた様に思う。

私の知っている年配の人が郷友会の要職に就かれたということは、とりも直さず、自分も年を取ったということであろう。

人によって体力、気力の年齢差はあるだろうが、私の場合、65才までは「若い者に負けるもんか」という気分を持っていたが、65才を過ぎると、急に一年、一年頭は白くなり、物忘れがひどくなっていく。テレビを見ていても、あれは何という俳優かなど、とっさに氏名が出てこない。人生の終えんということも気になってくる。

息子（四十三才）は日経新聞に入社し、現在福島にいるが、その勤めが終れば丹波に戻し、丹波新聞を継がせたいと思っている。

私の親父は五十才を過ぎたころ、エソで片足を切断し、晩年、糖尿のせいで目が不自由になったが、それでも八十三歳まで生きている。私もあと15年は生きられるだろうと思っているが、その日その日を目一杯生き、極楽往生をしたいものだと思っている。

関東氷上郷友会のますますの発展を祈ります。

郷土の生んだ教育界の偉才

故　小林武治氏を悼む

谷垣正雄

学校法人
国学院大学理事長
財団法人
私学研修福祉会理事長

昭和六十二年四月十二日、肝不全・腎不全のため防衛医大病院にて逝去された（享年八十一才）。

昭和六十二年四月二十六日、青山葬儀所に於て大学葬が神式で会葬者二千三百名の参列の中でしめやかに執行された。

略　歴

明治三十九年四月十三日氷上郡春日町新方（旧船城村）の荻野家に生れ、後東京の小林家を詞ぐ
大正十四年　兵庫県立柏原中学校卒業
昭和　四年　国学院大学高等師範部卒業
昭和　四年　東京本郷中学教諭　同二十三年まで
同　予備役陸軍少尉　任官
昭和　十六年六月　応召（北鮮方面）同十七年十二月末まで
昭和　十九年七月　再度応召（北支方面）同二十年八月まで
昭和二十三年　国学院高等学校主事・教諭
昭和二十四年　国学院大学主事
昭和二十六年　同　常任理事

国学院大学では昭和二十年代から大学院・高等学校・中学校・付属幼稚園の新設、研究所の設置、学部の増設等多くの事業を行うと共に、昭和五十七年には女子短期大学を開設する等飛躍的な充実をしているが、歴代理事長の代理、代行的な立場でこれらの事業に当り、またそれらの経営にも当られた。昭和五十七年には学院の百周年記念事業の実質的な責任者となり、女子短期大学の開設あるいは百周年記念会館の建設等その発展を図られた。

昭和五十八年国学院大学理事長に就任し、女子短期大学記念館、新石川校舎、新石川体育館等の施設を建設し教育環境の整備を図り、さらに昭和三十四年から二十有余年間の永きにわたって国学院高等学校長を併任し高等教育に多大の功績を残された。

また私学全体の発展のため財団法人日本私立大学連盟理事として活躍し、財団法人私学研修福祉会において私学教職員の研修福祉厚生に尽力、また私学会館の建設に尽力し同法人

の整備充実に多大の功績を残された。

今回多年の教育界における幾多の功績により従五位勲三等（旭日中綬章）を叙位叙勲された。

◇

彼は前述の如く八十年の全生涯を燃え尽きる迄その大半を国学院と私学の発展に尽力された余人の追随出来ない得難い人物である。

彼は短歌にも造詣深く、その一首

『眼つむれば無限の時空その上に
　我が身はあれど　すべなかりけり』

彼の人世観を表わすものであり、温厚篤実な人格者で真面目な教育者として接する人に敬慕された。

彼は私と同年であるが、中学生時代は秀才であり卒業以来は別の道に進んだため疎遠であった。晩年になって郷友会の理事会が彼の尽力で私学会館で催された時親しく話した事がある。その時の話でこの会館や国学院の諸工事を君の会社の大成建設でやって貰って良かったといってくれた。その後一昨年の郷友会で八十歳のお祝いに彼も一緒に表彰される事になっており、再度会う事を楽しみにしていたのに、彼は公務多端のため欠席されて再び相会うことなく誠に残念であった。謹んで哀悼の意を表する次第である。

西山敬次郎君の急逝を悲しむ

足立源治

一月十五日、朝刊はわが西山敬次郎君の急逝を伝えた。「日本道路公団顧問」の肩書は人違いかとも疑ったが。頭の中が白くなって、空回りを続けていた。家人が「西山さん、残念やったやろね」とつぶやくのが遠くに聞えた。俺はまだ死ねない、死にたくない、と絶叫する彼の声が二重三重のエコーのように私の耳にはあった。

碁の手合わせが初の出会いであった。もう二十年にもなろうか。私は三段の免状を貰って間もないころであった。日本棋院通産支部から電話が入った。私も当時、同じくジェトロ支部の世話をしていた。「西山厚生管理官が三段の免状を望んでおられる。貴君と互先で打って残れば三段を推せんする。よろしく」ということであった。「よろしく」に力がこもっている印象を受けた。手心を加える程の差はなかろう。さりとてぶざまな負け方はしたくない、と思った。手合いの結果は何目かの負けであった。碁の途中で、「あんたは陸士へ行かれた足立さんですか」と彼はひとこと言った。私は、そんな古いことを何故知っているのか、と思いながら「エエ」と

答えた。会話は唯これだけであった。私は丹波のことを全く思い浮べなかった。その後暫くして、彼の伝言を聞いた。三段になったこと。私の勤め先でなにか希望があれば力になろう。自分は中学の後輩である。ということであった。彼は大阪通産局長に赴任した。その時、一度友人を紹介したことがあったが、非常に世話になったと友人が喜んでいたことがあった。その後、一度局長室を訪ねた。私の声を聞きつけてすぐ秘書室まで出て来て非常な親近感を示してくれた。その際、「私はウィークデイより日曜日の方が忙しくてね。大臣が帰って来られるのを空港へ迎えに出るんですよ」と言った。本省に戻られてからは何回か会って雑談を交した。その折も、「自分はジェトロにも若干の腕力がきく」ということをほのめかしながら、私に利用するようにという好意を示された。局長にもなろうかという役人の腕力は、その外郭団体を流れ歩いている者には十分に分っている。

西山君が貿易局長に昇任し、管下の団体を見回ったことがあった。ジェトロでも幹部が玄関に勢揃いして迎えた。彼はお供を従えて入って来たが、私を見ると、人をわけて近づいて来た。何ごと？という思いで衆目を集めたに違いない。耳もとに口を寄せて「やめたら選挙に出るさかい、丹波の方たのんまっせ」ということであった。こんな際にわざわざ晴れがましいことを、と思ったが、彼のふだんの話ぶりから考えて、「足立の友人」というデモをやってくれたのだと思った。お蔭でこの後暫く私の株は激しく動いた。

その後もたびたび、「できるのに何も力になれなかった」という言葉を聞いた。私は何も頼まなかったが、今では無理難題をもちかければよかったと思う。その時、彼も私に言いたいことがあったのではなかったか。何か注文があったのか、今度会う世界でただしてみたい。

丹波における活動については語る人が多多あろう。ただ、有田さん引退後の選挙の戦略、戦術については私なりの意見を述べたこともあったが、しょせん、書生論は通じなかったようである。

西山君は戦場に倒れた。ひばりは鳴きながら空中に消える。私はひばりを思い出している。精神の貴公子と言われた西山君の死である。

あり余る才能を抱きながら十分花咲かせることなく散った。漸く政治家西山が活躍する環境・条件の整備なり、自らの胸中百万の兵足りて、今後は安定充実した戦いに勝利し、大いに経綸を行わんとする矢先のことであった。

人が死ねば惜しいと言うのはきまり文句である。丹波からみて惜しい。私は惜しいどころか、歯ぎしりでもじだんだでも、とにかく無念である。とても「戦いは終った、安らかに」などとはいえないのです。

有田さんの追悼には、大空を駆け回って丹波を見守って下さい、と書いた。

西山君は、無念の思いが修羅の炎と燃えて、丹波の空を焦すことになろう。今度会えば、君の世界の選挙では一筋に応援するつもりである。

願わくば、君の無念の涙の尽きる日の早からんことを。そして、静かに天命を受けられんことを。

弔辞を述べんとして心乱れ、独り個人的追憶に終始してその態をなさざりしをうらむ。

西山君、激しい気魄をこめた戦いの日々は終った。願わくば我が悲傷の言に耳をかされんことを。

訃報

こゝろから御冥福をお祈りいたします

服部（土井）栄殿（山南町）	62・1・4
芦田和直殿	62・1・10
小林武治殿（春日町）	62・4・12
長沢収二殿	62・6・5
伴仲信次殿（春日町）	62・10・13
鵜沢（芦田）洋子殿（青垣町）	62・11・2
西山敬次郎殿（市島町）	63・1・14

昭和六十二年度総会・祝寿会・懇親会

昭和六廿二年度総会、祝寿会及び懇親会は十一月二十一日、九段会館白鳥の間に於いて開催された。こゝ二、三年会への出席者は百人前後と安定しているが、今回は土曜日を含めた三連休の初日とあってかやゝ低調の出足であったが、それでも七十数名をかぞえた。

総会、祝寿会、懇親会とも坂上勝朗理事の司会により進行。まず総会においては、任期満了による役員改選の件が諮られたが、理事会よりの提案通り可決され、別記の通りの新役員陣に向う二年間の会務運営を委ねることになった。就中、会長については、先の常任理事会において故伴仲信次氏留任の内諾を得ていたが、十月十四日伴仲氏の急逝により、村上末吉氏（前副会長）を推挙、満場一致で承認された。続いて足立和巳会計担当理事から会計報告、荻野武監事の会計監査報告、坂上理事から会務報告があり、滞りなく閉会した。

○

続く祝寿会では、当年満八十歳を迎えられた会員六氏に、村上新会長より祝詞とともに記念品（可部美智子さん作の陶彫人形）が贈られた。本年祝寿を申し上げたのは、足立三治殿、足立石蔵殿、荻野一雄殿、須原清殿、藤田かね殿、細見綾子殿、であった。（うち細見綾子殿、藤田かね殿は欠席）

因みに記念品の陶彫人形の作者可部美智子さん（旧姓山本、柏原町縁故）は、女流陶芸家としてつとに有名を駆せているが、昭和六十二年度文部大臣奨励賞を受賞されている。

祝寿された方々を代表して足立三治氏（前会長）から「こんごもできるかぎりの力を尽くして、会発展を見守りたい」旨の謝辞があり、益々盛んな郷友大先輩の意気に、ひときは大きな温かい拍手が贈られた。

○

懇親会は村上新会長のあいさつのあと、遠路郷里からご出席いただいた氷上町長小森健吉氏、同町議会議長山口茂氏を紹介。小森氏より郷里の近況報告を兼ねたあいさつがあり、宴会に移った。席上、吉住重造監事が、本年四月十三日より六ケ月間にわたって郷里で開かれるホロンピア'88（北摂・丹波の祭典＝博覧会）に当郷友会員も多数の帰郷を要請。タイミングよく、兵庫県からのホロンピア・キャラバン隊（隊長・計盛哲夫北摂・丹波の祭典実行委員会事務局事務総長）一行のPRアトラクションがにぎやかに繰りひろげられ、懇親会の雰囲気は一挙に盛りあがった。

ホロンピアの企画についてはページを改めて紹介するので、

おゝかたのご参加を期待したい。

九段会館白鳥の間は、乾杯が終るや飲みかつ食べ、旧交新交の場がいつもながらに展開する。こゝで聞く丹波なまりは、どこかで聞くより耳に心地よく、なつかしさもまた格別である。老若男女、時の経つのも打ち忘れてのおしゃべりの輪がいつ解けるとも果てない。

宴の最後を締めくゝるのは御存知「お楽しみプレゼント抽選会」、会と会員からの数々の景品は、参加した人達の上にいや増す幸運をもたらす。今回の景品は次の通りであった。

＜山ざる賞＞

一等＝山の芋二キロ・十本

二等＝生みそ一キロ・十本

＜会員賞＞

会長賞＝村上末吉氏寄贈・山の芋四キロ・五本、シシ肉四百グラム・三本

三誠賞＝足立誠一氏寄贈・ポータブルハンドミシン・五本

ノーブルスター賞＝吉住重造氏寄贈・ポロシャツ・十本

つるや賞＝足立三治氏寄贈・婦人ベルト・五本

宮野賞＝宮野近氏寄贈・七宝焼ネックレス・五本

西山賞＝西山敬次郎氏寄贈・日本名湯めぐり・八本

鶴田賞＝鶴田宏・ゆき子氏寄贈・チョコレート・百本

前田賞＝前田和市氏寄贈・テレホンカード十枚

＜参加賞＞

全員にもれなく

細見綾子氏色紙複製＝二玄社渡辺隆男氏製作寄贈

丹波黒豆三百グラム（袋入）

なおこのほか、この会のために渡辺紙工業株式会社より通信用封筒五〇〇〇枚、手さげ袋二〇〇枚、足立和巳氏、吉積重造氏より清酒がそれぞれ寄贈された。

○

中締めは司会者の音頭で恒例の三本締め。きれいにきまって、また来年の逢う瀬を楽しみに散会。二次会に流れるグループ、家路を急ぐ人々。それぞれがこの半日のこゝろなごむ思いを胸に九段会館をあとにした。

'87関東氷上郷友会出席者芳名（町別、敬称略、順不同）

▲来賓

氷上町長小森健吉　同町議会議長山口茂

▲祝寿

足立三治　足立石蔵　荻野一雄　須原清

▲一般会員（出身町別）

◉青垣町（9名）

足立和巳　足立源治　足立静雄　足立多鶴子　足立勝

小杉武生　小寺確郎　安原三智子　山中岩雄

◉市島町（9名）

大槻作治郎　荻野武　木村つた江　近藤勇（ほか一名）

田中篤郎　鶴田ゆき子　藤田千治　森田宏

◉柏原町（13名）

大野善三　可部美智子　志村勝郎　谷垣正雄　常岡幹彦

出町京子　中江悦子　久安敏夫　松本源吉　宮野近

小田富士夫　鈴木大助（ほか一名）

◉春日町（10名）

足立かをる　今井次彦　上田脩　木呂子恵美子

近藤勇夫　波多洋三　前川和子　村上末吉　水船隆昌

吉住重造

◉山南町（7名）

小川晴通　大木正徳　清水正男　田中寛　仲一聡

東田實　池田忍

◉氷上町（17名）

足立順治　足立稔　秋元多美子　葦田有効　池上亘恭

井上庸子　上野重喜　臼井小五郎　臼井田鶴子

門山寿子　小山とし子　坂上勝朗　本城英明　広瀬敏行

渡辺隆男　渡辺貴美子　足立謙悟

◉黒田庄町（1名）

藤田正雄

◉東京都

山本充裕　山本典子

昭和六十三年度役員（敬称略、順不同）

会　長　村上末吉

副会長　足立源治　渡辺隆男

顧　問　足立三治　上山顕　植村章子　小谷正雄

佐々木盛雄　須原清　波多洋三　谷垣正雄　細見綾子

田英夫　岡田一男

監　事　吉住重造　荻野武

常任理事　足立かおる　足立和巳　足立謙悟　小田富士夫

坂上勝朗　田中篤郎　常岡幹彦　鶴田ゆき子　出町京子

宮野近　山中岩雄　藤田正雄

理　事　足立誠一　秋元多美子　芦田重秋　小川晴通

大野善三　岡吉明　粕谷進　木村つた江　小杉仙生

小山年博　田中寛　高見嘉都司　千種倫幸　堀井隆川

前田和市　村上昇　安原三智子　山内隆幸　山本清士

若森敏郎　安達陽一　大木正徳　大西俊治

木呂子恵美子　足立静雄　（退任）足立正

村上会長より祝福される足立三治，須原清，足立石蔵，荻野一雄の四氏

長寿を祝って"乾杯"

飲み，かつ食べて話題はつきない

ホロンピア・レディのアトラクション

軽くなった副会長の座

足立源治

ものごとを決するに二法あり。一は熟慮百遍、根回し、気配り万全の構えで事が運ばれる。一同ひとしく拍手をもってこれを迎える。他は何でも誰でもええやないか、浅慮、無配慮、奇偶の目、出たとこ勝負、あけてびっくり為五郎、これではうまく納るわけがない。

このたび、伴仲会長の急逝により、会長、副会長を選任しなければならなくなりました。会長人事は落ちつくところに落ちついたのですが、副会長の座が一つ空いてしまった。その選考事情が察するに後者のたぐいであったやに思われるのです。

昨年、総会の前の打合わせ会で、先ず会長を決めようということになりました。これは問題なく、従来から会長代行役もこなしてこられた村上氏で衆議一決したのですが、ここで村上氏が欣然受諾の少してまえのシャイ的表情をみせられたので、軽薄短小の私が「順番順番、繰り上げ繰り上げ」とやったのまではよかったのですが、いかんせん、少々声が大き過ぎた。彼は私に向かって「私が会長を受けたら、あんた副会長を受けなはるか」と丹波弁で詰めよられました。もちろん、やつがれ如き、その任に非ず、と抵抗したものの、この勝負、私が土俵を割ったと判定されたようです。この決め方が支離滅裂手法であるのみならず、光輝ある伝統を誇るわが氷上郷友会の役員の座を軽からしめる措置である、とひたすらお考え直し頂くよう願い出ていたのでございます。従って、総会当日もわざと遅参して、形勢観望の挙に出たのでございます。そして、それとなく進行過程を取材して回ったのですが、情勢は私に不利に展開していたのであります。

今はもうこれまで、と覚悟のほぞを決めましたが、当然のこと、あまり役に立ちそうにありません。今後はひたすらひとさまの邪魔にならんように努め、副会長の座を重からしめる人物の出現が一日も早からんことを希求するばかりでございます。

よろしくお頼み申します。

○　○　○

中国人とふるさと

渡邊隆男

中国人は同郷者をことのほか慕う慣習があります。同郷者は気心が知れて頭から信頼できるというわけで、共同事業や商売の取引も相手が同郷者であれば非常にスムーズに運びます。また人を紹介するときに、同郷者であればそのことを真っ先にいい、私同様どこそこの生まれだと誇らしげに告げるものです。

結婚の相手も同郷人を選びたがります。相手が同郷ということは、いつも自慢の種になるものです。

異郷で死んでも故郷へ埋めてほしいという願望には、すさまじいほどの執念があり、古来よく詩句の一節にうたわれるところです。だれでも知っている詩の一節、「男子志を立てて郷関を出ず、学もし成るなくんば死すとも帰らず、人間到るところに青山（墓地）あり」などはその反語的な表現でしょう。かりに他国で埋められた中国人の墓は、いずれもわが故郷に向けてつくられているのです。

「故郷に錦を飾る」とか、「故郷・先祖の墓の方向に足を向けて寝ない」とか、いずれも中国からきた言葉です。

中国人はまた故郷の料理を自慢し合います。口に合って、ほんとうにうまいと信じ切っているようです。だから大切な人を食事に招くときには、必ずといっていいほど自国の料理店に呼びます。正式な宴会で四川料理に呼ばれたとすれば、その主人は四川省の人だな、北京料理に呼ばれれば北京出身の人だなと見て、先ずまちがいないほどです。

宴会といえば、席順がうるさいことといったらたいへんです。正式な宴席はもちろん主人がよく考えて名札を並べますが、それがない場合、だれが上座に坐るか、それはもうゆずり合いでなかなか決着がつかないのです。日本でもやりますが、そんな簡単なものではありません。延々とやるのです。先輩や目上を立てるだけでなく自分だけはへりくだろうとするわけです。人を立てる礼儀の徹底していることは驚くばかりです。

親孝行を至上の美徳とする慣習はいまも変りません。親の死に目に会えなかった子供は、家の敷居を這って入らなければなりません。喪章を服につけたまま、髭もそらずに一年間喪に服します。いまでもそれを実行している人をよく見かけます。

先祖や親は、つまりわが肉身のふるさと、わが魂のふるさと、故郷こそわが〝よりどころ〟とする中国人の思想は、今も変りません。韓国またしかり。

東洋の先進国、日本はいかがでしょうか。

ふるさとの言葉

足立源治
（青垣町）

故郷のなまり懐かし　停車場の
人ごみの中に　そを聞きにゆく

夜行列車に揺られて着いた
遠いあの夜を思い出す
上野はおいらの心の駅だ
配達帰りの自転車を
停めて聞いてる国なまり

私たちが使っている言葉には、いろいろな種類があります。標準語、共通語、方言、それに国なまり。これらを混ぜ合わせた言葉などがあげられます。

東京のような植民都市で使われる言葉は、まさに雑居ビルのごとく、またゴッタ煮にも似て、各地の言葉が入り混じっています。

お国なまりやいなかの方言が口にのぼるのはなにか気恥ずかしい思いがして、できるだけ標準語をと舌かむ思いをしている人が多いのではないでしょうか。標準語といっても東京地方の方言ですから、そうそうありがたることもないと思います。いくら標準語を取り込もう、共通語になれようと思っても、生来身についた言葉とは容易に別れられません。特に関西弁は東京の言葉のように切れ味がよくない。切り口がはっきりしない。谷崎潤一郎が、大阪弁は「へんに地ばいをして蛇のようにからみついてくる」と書いているように、言葉の周辺がはっきりしないところがあります。「だめ！」なんていわれるともう二の句が継げないような感じですが、「あかん、あきまへん」の方なら、「ほんならもうひと回りしてきたら、ぼちぼちようなっとるんとちがうか」といった味があります。私も、「だめ」というせりふは言えぬままに過ごしてきましたし、「うら」と「うしろ」の使い分けができません。すべて、「うら」でとおしています。いつかＮＨＫの俳句の講師をしておられた細見綾子さんが、テレビの画面で「私のうらの句は…」と言われるのを聞いて、「ああ、やっとってや」と思ったことがありました。

「山ざる」誌に、丹波の思い出について寄稿される方が多いのは嬉しいことです。それぞれに両親のこと、山河のこと、遊びのことなどを振り返って懐しがっておられます。故郷批判の稿は全くありませんし、氷上の言葉について言及されることも少ないように思います。

同郷人が最も気持の通い合うのは同じなまりでしゃべる時ではないでしょうか。郷友会の集まりの楽しさは、やはり同

じなまり、氷上言葉が飛び交う中に湧いてくるものと思います。本稿の初めに載せた歌もそれがいいたかったからなのです。

最近のことです。一歳半を過ぎても一言もしゃべらないで親を心配させていた赤ン坊が、ある日テレビを見ながら「ソニー」「エヌイーシー」と叫んだ、という新聞記事を読みました。普通の赤ン坊なら母親を呼ぶ言葉や「マンマ」「ウマ　ウマ」と食事用語を口走るのでしょう。その昔、農村ではおばあさんが育児担当者であったため、「ノンノンサン、アン」と仏壇礼拝の言葉を覚えたとも聞きます。

これからはテレビを中心とした視聴覚に訴える情報伝達がますます盛んになります。これにともなって共通語の普及が拡大して、いずれその中に取り込まれてしまい、狭い地域にかすかに息づいている方言も次第に影が薄れ、枯れていくのではないでしょうか。方言を残して欲しいと思います。これこそ、ふるさと恋しやの原点であろうと理解しています。

ＮＨＫの連続ドラマ「はっさい先生」の「はっさい」なる言葉も、私たち少年のころは勇ましい女の子のことを「ばっさい」とか「男ばっさい」とかいってましたが、今では丹波でも死語になってしまっています。

ということで、少年のころを思い出しながら、わずかに脳のひだに残っている言葉を思い出して、会話の形で書いてみます。氷上の言葉といってもはんみちも離れていない所でも、「柏原チャアチャア、石生ネェネェ」といわれるように、少しずつ違っています。私は、青垣町東芦田出身ですから、ここを中心に使われていた言葉、話し方によるわけですが、それも、五十年以上も前のことです。多分、間違いだらけだろうと思いますが、今後、山ざる誌上で、氷上言葉論争が起きることを願いながら、静まりかえった池に一石を投じて、これによって波紋が次第に拡がることを期待しています。

○

「おとっちゃん、　なんどお　おくれ」
「なんどおてか？　家ン中の上ッとのいかきの中に、あき豆のいったんが入っとるさかい　それたべときな」
「そんなん　いらん、あさま　かっしん　買うて来よったやろ、あれおくれえな」
「そんなん　いつまであるかいや、お前らは、一斤でも二斤でも買うただっけはみな食てしまうんやさかい。あとでまただっちん買おたるさかい、ちょっとのまァ牛飼てきな」
「ばんげにええもんたべにつれてったろ」
「ほんまに、どこへ」
「魚栄にきまっとら、あそこのんたべつけたら、よそはもみのおて口にはいらへんやろ」
「魚栄さん　なあ、きんのうかしらん、よさり、道ではめに

足かまれたったんやて、ひどうはれて、足が死んで色が変ってしもとってんやて。せやから　店開けとってないで、寝とってやげな」
「そうこ、なした　どくしょうなこっちゃい」
○
「アレ、もういによんなはるんけ、どうかしなはったん。もっとひいさん　おったげなはったら喜こんでだしたやろに」
「ナァーに　わしがおったら邪魔になるゆうような顔しくさって、あたごうがわいたさかい、だんまって出てきてやりましたんや」
「まあ、そんなことありまっかいな、いつでもおじいちゃんがゆうて、気ィつこうとってだっせ、ちょっとうちのおえへでも上っていっぷくしとっとくんなはれ。わたしが行ってあんばよう話してきますさかい」
「そんなことしてもらわんでもだんないけど、ほんなら、あがっとでいっぷくさしてもろとりまあな、なした気の毒な」
○
「ゆりちゃん、ヨーケ　なり天の実もいできたなあ、いっしょに　このいどこもってよどみ摘みにいこかい。ほして、よどみ入れたバアをついてもらおかいな」
「ここらあの草ぶけは、くちなわがおるさかいきいつけよ、たんと　はめもおるさかいなあ、このきいせんばいで草たたきもっていきな、めげであし切らんようにな。まんだちいと寒いさかい、よどみもあんまり出とうへんなあ。エッなんや　シイしたいんか　いまさしたげるさかい、ちょっとこばっとれよ。なぁーんや、もうしとってやないかいな。お前もこらえじょうのないもんやノォ。ああ　ああ　あた汚い、どだい　みてくれの悪いことになってしもた。しょがないさかい、いっぺんいんでこかいな、みんなあそこにおいとき」
○
「早う起きいよ、起きてちょうずつこうてきな。チャンとお坐りして、ごぜんたべんかいな、ぐずやなあ　お前は、チャンチャンとこしらえせんかいな。もう奥の方から大きい子がせんぐり集まって来よってやで」
「今日はあずきごはんええといたさかい、頑張ってきねえよ。キョロキョロ横目せんと行ってきィ。あんまり道ぶちのきぶいとこ歩かんようにな、ちいとくらい遅れてもだんないさかい、そんなちょうしばってばっかりおったらあかんで」
○
「きれえな　お月さんが出とってや」
　お月さん　なんぼ、十三、七つ、まだ年(トシ)や若いな、よめりしようとらくじゃ。
○

「遠いところよう来とくんなはったナァ。サァ、サァ、まあ
あがっとくんなはれ、今日は朝から　どだいほめいてしょ
がごだへんなあ、えらいさんこにしとりまっけど、こらい
とくんなはれよ、なんにもああしまへんけど、いっぱい
やっとくんなはれ。やりもって　いちばん打ちまひょか」
「チート　どこどお　やぐさいこと　ごだへんか。たばこの
火ィが落ちとおしまへんか。どだいよう　たたみ焦がして
くれてやさかい」
「しゃちもないことゆわんといて、メンメが落しといてから
に、あんたじき　しとにおわしなはるさかいにかなんなあ」

○

「おんなはるか？　えらいきばりよんなはるなあ　なにがで
げます」
「なあに、なんにもようしいしまへんじゃ、なんせえ　しか
まげてしもとるもんやさかい、きょうは　なんだしたな」
「えらい急なこってすまんこっちゃけどねーえ　あしたの山
行きの段取りがどだいぐつの悪いことになってきよりまし
てなあ、あてにしとった手(テエ)が足らんことになってしもたも
んやさいかい、お宅へ無理ゆいによせてもろたんだっけど、
なんとか　らくにしとくんなはしまへんやろか」
「あしたあ　だっか、こーっと。ああ、あしたぁなら　らく
だはな。あんまりまにあいしまへんけど、いかせてもらいま」

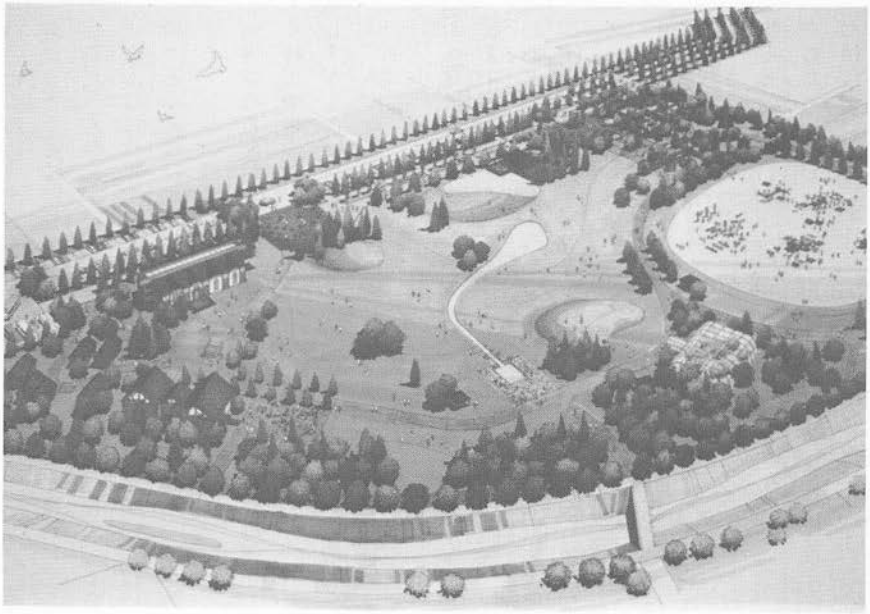
ホロンピア'88 北摂・丹波の祭典

会期…昭和63年4月17日（日）→11月6日（日）
会場…兵庫県　三田市・氷上郡・多紀郡・美嚢郡の1市11町

私達のふるさと兵庫県で開催される「北摂・丹波の祭典ホロンピア'88」は、JR福知山線の複線電化と舞鶴自動車道の開通を契機に、豊かな自然と文化に育まれた田園と、優れた都市機能が調和した新しい田園文化都市の創造をめざして開催されるものです。この祭典では「21世紀・公園都市博覧会」「ひょうご'88食と緑の博覧会」の二つの博覧会のほか、1市11町で多彩なイベントが繰り広げられます。そこで、この二つの博覧会と氷上郡各町の主なイベントをご紹介しましょう。

21世紀・公園都市博覧会

まず、4月17日から三田市で開催される「21世紀・公園都市博覧会」は、〝活気と自由あふれる交流都市〟をテーマに、人間と都市と文化の物語を展示や影像で紹介するだけでなく、歴史的な都市や建物を実際に再現するスケールの大きな博覧会です。



「丹波年輪の里」クラフト創造遊苑（柏原町）

ひょうご'88食と緑の博覧会

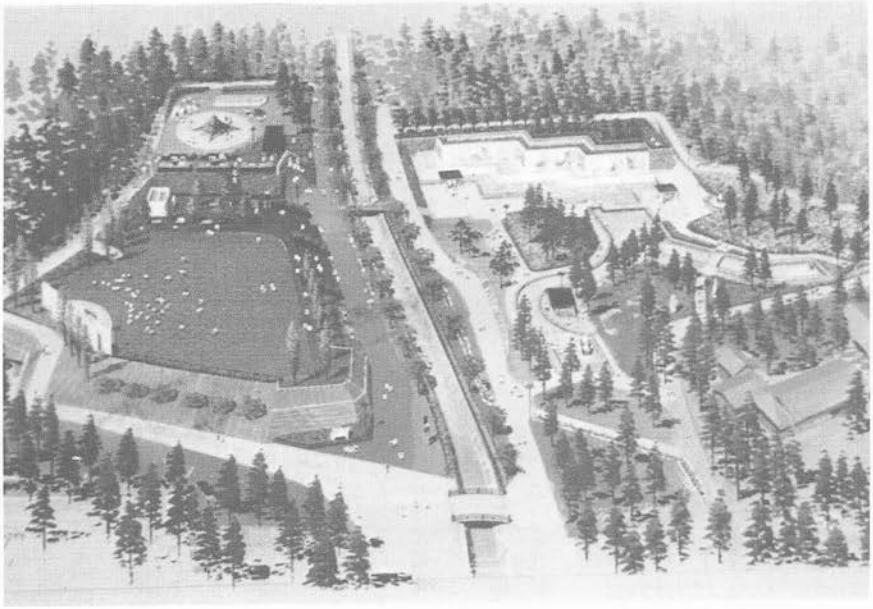
9月23日から多紀郡丹南町で開催される「ひょうご'88食と緑の博覧会」は、「食と緑……輝かしい生命の末来」をテーマにバイオテクノロジーなどを利用した未来の農林水産業を紹介するだけでなく、秋の丹波の味覚もたっぷり堪能していただけます。

氷上郡の主なイベント

柏原町には、木工を中心としたクラフトを通じての創造的な余暇活動や、スポーツ・レクリエーション活動など、木の文化に親しめる全国的にもユニークな「丹波年輪の里」クラフト創造遊園が誕生します。また、ここでは青少年の交流をめざした「21世紀をになう青少年祭」も開催されます。

氷上町では、「川と野の文化を考えるシンポジウム」が開催され、分水界をもつ全国の市町村が集い、明日の自然と町づくりを目指します。また、日本一低い分水界にちなんでできる水分れ公園では、水分れ桜祭り、水分れ祭などが開かれます。

青垣町の丹波青少年自然の家では、「阪神・丹波青少年交



水分れ公園（氷上町）

流」として北摂・丹波とお隣阪神間との青少年たちの交流イベントが開催されます。また、青垣ハングライダー大会、第2回全国公募展青垣2001年日本画展なども開かれます。

春日町の文化ホールでは、〝ふるさと丹波〟絵画展（全国公募）を美しい丹波の自然、文化、人々のくらしなどを画材に、情緒豊かに開催されます。また、深尾須磨子生誕百年祭、黒井城と出城まつりなどが開かれます。

山南町では、「不老長寿をめざす漢方の祭典」が開催され、丹波の自然を借景に、全国の薬草八十種、薬樹百種を植栽した全国的にも非常にユニークな薬草薬樹公園が開園します。また、日中漢方国際交流として漢方の本場中国より中国人民生協友好訪日団を招待し、漢方の里づくりを推進します。

市島町の三ッ塚史跡公園内の花しょうぶ園では、三ッ塚しょうぶまつりが開催されます。また、愛育館完成記念バレーボール大会、市島町・三ッ塚マラソン大会などが開かれます。

春、夏、秋の季節のうつろいに、丹波はさまざまな新しい顔を見せてくれます。私たちのふるさとで開催されるこの祭典へ、是非、ご家族揃ってご参加下さい。お待ちしています。

悔なき我が人生に教えられる

足立　三治（青垣町）

私は人からよく竹を割ったようなと言われます。それが褒め言葉なのか冷かされているのか、自分のことなると判然としません。竹のようにまっすぐという意味だとすれば若い時から神仏への信仰心ゆえに正しくあれと自らを引き締め努力してきたことも確かです。ただ物事には両面があるようにまっすぐであろうとして少々融通がきかない面もあるようで、人によっては苦い思いをさせたことも否めません。

さて、竹のような性格であるかどうかはわかりませんが、植物の中でも竹に最も愛着を感じております。そして竹と言えば子供の頃生家の裏手に生え茂っていた竹藪のことを思い出します。季節は春。万物が一斉に生の息吹きを始める頃にはいつもその竹藪を思い出します。春ともなると竹藪の中ではふっくらと土を持ち上げるようにして竹の子が顔を出します。それが見る見る間に伸びて一週間もすると子供の背丈ほどになってしまいます。父とよくその竹藪に入り竹の子掘りをしたことがあります。竹の中でもこの孟宗竹が一番たくましく伸びるんだと父から教えられたことがありました。竹と言えば孟宗竹と思い、その生態を子供の頃からじっくり観察しながらその不思議な生命力に強い魅力を感じるようになりました。特に忘れられない感動を覚えたのは東京での奉公中に大病に冒され止むなく生家に戻って闘病生活を続けていた時、散策中に見た竹藪の中の光景でした。既に若竹と呼ぶにふさわしい伸長ぶりを示していた竹の子は自から一枚一枚皮はぎながらその節々に整然とした成長の跡を刻んで何本も立っていました。親竹は長い風雪に耐え太くずっしりとした風格を見せていました。その親竹に追い付こうとして一心に成長を続ける若竹。うつそうとした無言の竹藪の中から強い生の雄叫びが聞えてくるようでした。あの過ぎし私の闘病生活が私の人生にとってもっとも苦渋に充ちた時でした。絶対に治る、治して見せると心に強く誓ったものでした。長びく病状に焦り、弱気が出てきます。その年の冬は例年より雪が多く竹林もさんざん雪にいためつけられていました。それが春になると親竹は何事もなかったようにまっすぐに立ち、その根元に育まれた竹の子は一斉に土を持ち上げ、たくましい成長を始める。この光景は不思議な生命力への強い感動と共に力強い勇気を与えるものでした。そして私が東京での再起をかけて再び郷

里を後にしたのはその年の暮であった事も忘れられないことです。私が竹という植物を好きになったのは若い頃にこうした貴重な体験を得ているためですが、年輪を重ねるに従い自分の人生と重ね合わせ竹の生態に益々愛着を深めるようになりました。竹の子が成長するに従い、古い殻を脱ぐように一枚一枚、自らの皮をはいでゆく潔い清新さ。根本をしっかり固めてまっすぐに立つその姿勢の良さ、そして文字通り節度正しく刻んでいる節。こう考えてくると自分にはとても及びのつかない凛々しさをそこに見ることができます。とりわけ節ということを考えると自分に対する節度、他人に対する節度は人間社会の基本的な掟であるように思います。これがややもすると失われつつあるところに現代社会の乱れがあるように思います。節度と礼節のある生活また事業の上でもこれを基本に倫理としてその道に精進するとき自ずと奉仕の精神が芽生え理想が実現されてゆくものだと思います。竹の生態はそのことを私に教えております。自然の摂理と言う以外説明のしようありませんが、私共人間もこの自然界に生き摂理によって生かされているとすれば竹の生態にみるような節度ある生き方は大いに学ぶべきでありましょう。

追伸　この寄稿文は昨年私が満八十才の年輪を記念して出版した「私の歩んだ道」の一節を抜粋したものです。

思い出

大西俊治（柏原町）

私は中学進学も一年遅れ、更に上級校進学も一年遅れで、青春のころはいろいろと支障を来したものでした。しかしいまだに〝あれはまずかった〟などと思ったことはありません。それはその時どきに自分自身の心の中に納得のいく何物かがあったからだと思っております。また、父からも母からも進学の遅れを一度たりとも責められた記憶はありません。

私が柏原中学校に入学したのは大路村の尋常高等小学校の高等科一年を修了した昭和三年でした。小さい時から山野を駆け廻って遊ぶのが大好きでしたから入学してから直ぐさま陸上競技部に入れて貰って今は亡き河田先生指導で足立徹マネージャーの下、当時を風靡した岡本、長沢、小寺、永井（旧姓小林）諸先輩に教えられながら風光明眉な入船山下の校庭で大いに青春を楽しんだものでした。卒業後は一時母校小学校で代用教員として教職を執らせて頂き、また地元青年団にも入団を許されて好きな陸上競技を楽しみ、また一方陸軍士官学校へ向けての受験勉強にも取り組みました。陸士は難しいといわれながら何かの間違いで入学することができました。

その時から終戦まで軍籍に身を置き、復員後は関東に職を求め仕事を変えること二度三度、実りの秋を知らざる人生を繰り返しながら今日に到っております。一～二年に一回の墓参帰省はあるものの丹波を離れて五十五年、この歳月は幼少時の記憶の大部を奪い去った感が致します。そんな記憶のなかでふと思い出したことを二つばかり拾ってみたいと思います。

○

その一つは私がまだ幼少のころ、稲穂の黄ばむ秋たけなわのある日、母に連れられて田舎のあぜ道を歩いていた時母がこんなことを諭してくれたこと（昔からある教えと思いますが）を覚えております。「俊ちゃんこの稲穂を見てごらん。最初の穂は真直ぐ天に伸びているけど、もみに実が入ってくるに従ってこのように穂先を下げて来る。人も同じで学を修め地位も上り充実してくるとこの穂と同じように頭を低く保たなければいけないんだよ」と今もはっきり記憶に残り反省の資としております。

○

その二は、現在の科学では解明されておらない霊感の存在することであります。これも私が小学校に上る前だったと思いますが、家に程近い所に墓場があります。その墓場の入口の直ぐ手前に石橋のかかった幅一メートルか一メートル半、高さが一メートル、水深が十センチメートル前後の小川があり、その石橋の端に川もを背にして遊んでいました。何かのはずみであおむけに下の小川に落ち着物も水びたしになりましたが奇跡的にけがもなく早速家に着替えに帰りました。家に入った途端、母は私の姿を見て「四～五分前におばあさん（盲目で床にふしていました）が危ない、危ないと大声で叫んだところだった」と。現在も霊感は存在するものだと思っております。

今これをしたためている時、取引先の某社長が年末のあいさつに来て、こんな紙片をくれました。別に他意あっての事ではありませんが。

曰く「つもりちがい十ケ条」と記してあります。お笑い草に

高いつもりで低いのは　教養
低いつもりで高いのが　気位
深いつもりであさいのは　知識
浅いつもりで深いのが　欲の皮
厚いつもりでうすいのは　人情
うすいつもりで厚いのが　面の皮
強いつもりで弱いのは　根性
弱いつもりで強いのが　我
多いつもりで少ないのは　分別
少ないつもりで多いのが　無駄

小学生のころ

荻野一雄（市島町）

私は旧鴨庄村北奥後地の出身です。小学校に入学致しましたのは大正三年で第一次大戦が始まり、日本も対独戦に参加した年でした。その記念に一年生から高等二年まで各年ごとに写真をとりました。今も手もとにあります。

次に小学生のころの思い出を書いてみます。

兵隊ごっこ

戦争に影響されたのか兵隊ごっこが盛んになりました。各自板と竹で銃を作り各部落で毎日練習をしました。ついには全校生徒を東西に二分して、一大決戦をすることになりました。それは春日部村との境にあるかしわ野において行われました。突撃ラッパを合図に両軍入り乱れて大激戦になりました。やがて、引き分け終戦になり各部落ごとに隊を組んで軍歌を歌いながら帰途につきました。

山の神まつり

部落にあります熊野神社に小学生の男子のみが集まり神社のお堂で一夜を明かす祭りです。各自お米を持ち寄り、その他に寄贈もあります。夕食は混ぜご飯を作り、みんなで食べます。

歌をうたったり、遊技をしたり、試胆会などもやり、十二時ごろまで騒ぎます。翌朝は暗いうちに起きてご飯をたき、峠の上にある山の神に供えます。また、大きなトンノコ（握り飯）を作り朝早くお参りに来る人々に差し上げます。

ビシヤン（節分の夜）

当日も男子生徒だけ集まります。車を用意して　ビシヤンホオクレ　といって各戸から薪を集めます。集った薪を熊野神社の広場の中央に孟宗竹の大きなのを中心に山積みします。夜は山の神祭と同様にお堂で十二時ごろまで騒ぎます。食事は節分でありますので各戸でお餅をついて小豆餅を作りますからそれを各自持参して食べます。翌朝夜明けと共に薪に火をつけます。竹のパンパンはじく大きな音と共に大火柱が立ちます。そのころ村の人々がお参りに集まります。

天神講

これは毎年一回男女共同で行います。天神様にあやかって成績が良くなるという催しです。生徒の家で昼間に行います。お米や野菜を持ち寄り混ぜご飯を作ります。その中にゴボウを大きく切ったのを一個入れておきます。食べる時、それが

当った人は特別成績が良くなるといわれていました。夕方まで楽しく遊んで解散しました。

以上が私の小学生のころの思い出です。

八十年の人生をふりかえる

藤田かね（春日町）

昨年秋、傘寿のお祝いを氷上郷友会から頂いたわけで明治四十年の生れ。所は丹波の国、国領（春日町）。明治、大正、昭和の三代を都会で生きて来たので当然戦中戦後の苦労を人並みに積んで参りました。このたび「山ざる」編集部の求めに応じて八十年の生涯を振り返ってみようと存じます。

生家の裏の小川を渡ってすぐそばの小山に笹を踏み分けて松茸を採りに行った懐しい思い出。

大正時代には鐘ケ坂の桜と柏原女学校。

昭和の初め、やはり丹波の生れで横浜の電機工場に勤めていた現在の主人のもとへ嫁いで来て何回も空襲を経験し、関西へ工場疎開もしました。終戦後は名古屋に転勤し、その後再び横浜に戻り、現在は東京郊外で余生を送っております。

昭和二十年三月の東京大空襲の夜、敵機もこゝまでは来ないだろうと思いつゝ、我が家の裏手の総持寺の山陰に、材木を並べて土をかぶせただけのみすぼらしい防空ごうに、一家四人で潜んでいました。ところが珍しくB29一機が我が対空砲火で火だるまとなり、よりによって我が防空ごうの直ぐ近くに墜落したのです。私たちは火煙、土煙の中をごうから飛び出しました。その時、モンペと足袋の間の部分に火傷を負い、眉もこがしました。

やがて姫路地方に工場疎開、転勤と決まり、その準備に忙しい出発の一日前の五月末、今度は昼間すぐそばの横浜市内の大空襲、我が家の上空に吹き飛ばされた鉄片が舞っているのを見ました。翌朝出発、一家四人鶴見・東京の駅のホームにバスケット等を手に手に何時間も座り込んでやっと乗った夜行列車で大阪駅へ、疎開中の長男を連れるため途中郷里に立ち寄り福知山線の汽車を待つうち、一寸の手違いで大阪駅でまたもや空襲にあい、まっ暗な中で南無妙法蓮華経と声高らかにとなえたことを今も思い起こします。その夜は宝塚の妹の家で一泊し、国領でも一週間程休んだ後、先発の主人が待つ姫路市郊外の網干工場の社宅にやっとたどり着きました。これでどうやら命だけは助かったとの思いでした。

こゝでも姫路市に空襲があり、火の手をはるか山の向うに望んで姫路城も最後かと見ていましたが、翌日も変らぬ白鷺の優雅な姿がありました。終戦後解体修理されましたが、今でも我が家には解体前の写真が額に納まっています。

社宅の周囲には農家もあり、瀬戸内海に近いのに終戦後の食物の不足は誰もが苦しみ、赤土を砕いて畑を作りさつまいもを作るなどしてこゝに二年間、次いで三重県四日市市に近い町の工場に転勤、近くの伊勢の海にいわしがいっぱいあがる光景を見て、よい所へ来たものと喜んだものです。周囲の山には竹やぶが多く、今もたけのこが名物になっています。松茸もこのころはまだ近くの山に出ました。

長男が姫路で中学に入学、三重では転学に気をもみ、その中学の教頭夫人が柏原の同級生で、何年ぶりかの再会を喜んだこともありました。こゝで六年、併せて八年の社宅生活で上下左右の煩わしさを味わいましたが八年ぶりに会社が社宅として保管してくれていた横浜の古巣に帰りました。

昭和四十年、東京郊外三鷹市の井の頭公園の近くに今から思えば夢のような値段で百坪の土地を求め、秋田の大工の手で全部秋田から運んだ木材で建てた家に住んで二十三年、前後の隣家の庭に武蔵野名残りの桜の老木、春ごとにいっぱいの花をわが窓近くにのぞかせています。長男は名古屋、次男は横浜、孫四人、長女夫婦と一、二階に住んで、毎日のように公園を抜けて最近急に発展した吉祥寺の町に買物を楽しんでいます。公園には春は花見の宴、冬は千羽近い鴨が池に浮んで薄い氷の上を危なげに歩いている。江戸に飲み水を送った玉川上水が今はわずかな水ながら静かに流れています。

丹波への思い

小寺確郎（青垣町）

京都の駅で新幹線から、山陰本線に乗り換えると、その辺の雰囲気にもう何となく丹波が感じられて、いつもヤレヤレと思うのである。保津峡を抜けて、亀岡の開けた辺に出ると、そこはもう、もとより丹波であり、車窓を通じて帰って来たなあと懐しさが湧いてくる。

もちろん、私は氷上郡丹波であるが、何となく安らぎのようなものを覚えるのである。

福知山駅からタクシーで、穴の裏トンネルを抜けると間もなく実家に着く。私は青垣町東芦田の生れであるから約二十五分のドライブである。穴の裏トンネルが出来てからは、いつもこのコースを採ることにしている。

以前は大阪経由、福知山線で帰っていたが、福知山経由の方が時間も早いし、第一汽車の乗り換えが一回で済む。トンネルの接続道路が青垣町側も京都府側も上等になり、自動車の往来もかなり多く、両者の交流も大変便利になった。

トンネルを抜けて少し下ると、もう山の谷間も終りであるが、その辺りの道端に大きな岩がある。子供の頃に聞いた話

では、何でもこの岩の上で、何とか言う武者が腹を切ったとか、首が置いてあったとかで、それに似たような意味の名がその岩に付いていたと覚えている。今は新道路に押されて草の中に頭が見えるだけである。この辺まで下りるといつも何とはなしに昔のことを思い出す。

トンネルが出来る以前は、この岩の少し山側から細い峠道の入口があった。文字通り九つ十九折りの急坂で、あまり急なので前の人の穴が見える（？）程であったとかで、穴裏峠と呼んだそうな。但し、真偽の程はつまびらかではない。

この道が東芦田方面から京都府、天田郡、福知山方面へ越す道であった。すべて昔のことであるから確かなことは覚えていないが、小学校（芦田小学校）の修学旅行でお伊勢参りがあり、六年生と高等科の生徒が一緒であったと記憶している。私は六年生であった。六十数年前の話である。

早朝五時ごろに出発。服装はもちろん着物で、履物ははわらじ履きか、草履にあとかけ（草履の鼻緒を別の緒で足首に固定する）をした。そんないでたちでこの穴の裏峠を息をはずませながら何とか越え、三時間半位もかけてようやく福知山駅へたどり着き、そこから汽車で伊勢へ向った。

そのころの引率の先生もさぞ大変であったろうなあなどと思ううちに、数分間で既に実家に着く。淡い今昔の思いに浸りながら。

私は釣りが好きで特に渓流釣りを好む。帰丹の度にここ数年必ず、佐治川（加古川）へ釣りに行く。昔の釣り場は佐治の下流から沼の裏を経て幸世橋、幸世小学校西側、更に成松橋を下って時には本郷の辺までで、その折の状況によって釣場を考えたものである。

この川は水源から下流へ、氷上郡内を自然のままにうねりくねって流れていた。両岸には多くの竹やぶがあり、また大木が茂っていて、一つの橋の上からは上流にも下流にも橋が見える所はほとんどなく、それ程曲りくねり竹やぶや大木に被われていた。川原には春はきじが遊び鳩やその他の鳥も多く、いたちなども住んでいた。川の流れには浅瀬もあり、たんぼの水を引く堰があり、曲り角の石垣の所や、竹やぶの下などは深みになっていて、格好の釣り場となっていた。時には鉄砲打ちが現われ、その銃声で我に還ったこともあった。しかも流れは澄んでいて、泳いでいる魚がよく見え、魚種も多かった。

このように人里からは離れた別世界のたたずまいで、静寂そのもの、丹波の自然の野趣と情緒があった。

ところが今はどうだろう。河川の補強とかで、すべての竹やぶや大木は全く跡形もなく、取り払われ、従来の堤の外側に、広い所は五十メートルも隔てて新しい堤防を築き、しかも自然の曲りくねりを無くして、上方からも下方からも一望

に見渡せる真直ぐな川となり、ただ、水を流すいわゆる水路と化した感があり、殺風景そのもので、自然の景観はもとより、暖かみも情緒も全く無くなっている。人里や工場などもまるみえで、既に俗世界の中である。

今は釣をしていても直ぐ近くを自動車が頻繁に爆音をたてて行き交う。しかし時勢の然らしむるところ、これもまたやむを得まい。氷上郡方面より遠坂トンネルを抜け、但馬方面への交通が便利となり、また、それぞれの交流も果せることともなり、否やを言えるものではない。これも丹波開発の一環であるからである。

私は旧制柏原中学に学び、東奥村という所に下宿をしていたが、土曜日ごとに自転車で青垣町東芦田へ帰った。雨ともなると道路が泥道と化す。確か当時我々が石生の十六町とか呼んでいた真っ直ぐな長い道などは荷馬車などが通るためか、中央部には水たまりが次から次へとでき、道の端の方は泥の畝で、まともに自転車を走らすのが一苦労だった。もとよりその他の道路も大同小異であり、帰るのに一時間以上もかゝったものだ。

三年前、兄（六十一年死去）のオートバイの後に乗って成松の下の方まで鯉釣りに出掛けたが、その時初めて成松バイパスがあるのを知った。昔は自転車で商店街の細い道をキョロキョロと両側を見ながら通ったものであるが、その変りようにはへへーと驚いた。

私は旧制柏中から東京の魚獲りの学校（今の水産大学）へ入学、その学校を卒業後も魚獲り会社（日本水産）へ入社した。

初めは海上勤務の関係で文字通り世界の七つの海へ魚を追って航海し、またその後職掌柄出漁船の基地作りや漁業事情視察のため、これまた世界の各地を走り回った。

ポルトガルの西端のビゴという街の漁港や漁業状況を調べに行った時、飛行場から街に入る途中に、日本の松と同じ松林が続いた所があり、漁港の対岸も日本の景色と同様の景観に驚きもし感心もしたものであった。

また、南アフリカのモロッコ沖合のカナリヤ諸島グランカナリー島の街ラスパルマスを、モリタニヤ沖への出漁船の基地として冷蔵庫も建設したので数回も視察に行った。その島の高所にあるゴルフ場に行った時、山道の途中に日本特有のものと思っていた柿や栗が実っているのを見て、驚きとともに丹波へのノスタルジアを強く感じたものである。しかしこのような商売柄何年もの間古里丹波へはなかなか帰る機会に恵まれなかった。ようやく現役を離れ毎日が日曜日となったところからは、年に数回は帰丹するようになった。そのたびごとに丹波氷上郡の情景は変ってゆく。丹波という言葉の響きは、山奥の過疎の田舎、何かに遅れた山村地方といったよう

なもの、代名詞的な感じを多くの人々は抱いていたのではなかろうか？

ところが今は違う。例えばどんな小道も舗装がしてあり、昔の道とは大変な変り様に驚くのみか、郡内を走り回るにしても、多くのバイパスが作られ、一つひとつ道標を確認しながらでないと道を間違える。昔たんぼであった所に大きな道路ができて、ドライブインをはじめ、種々の建物が軒を並べているといいたい位の変貌振りであり、昔の私が知っている面影は全く失われてしまった。トンネルといゝ、川といゝ、道路といゝ、これが昔からの丹波かとむしろ違和感さえ覚えるのである。

一七五号線と一七六号線道路をつなぐトンネルが開通したと丹波新聞で知った。更に近く近畿舞鶴線の高速道路の完成とか聞く。つくづく時勢を感じるのである。丹波氷上郡の開発を念じ、またそうあることを十分理解し、まさに田園都市への開発途上にありと同慶に堪えない――とは思いながらも丹波の本来の自然の中で生れ育った私は、何か抵抗めいた思いがしないでもない。

齢を重ねるに従って故郷は恋しく、懐しさはいよいよ強まるのではないだろうか。若い人に果してそんな古里に対する郷愁があるのであろうか。『故郷は遠きにありて思うもの』『兎追いしあの山、小鮒釣りしあの川』など果して実感が湧くのであろうか。

氷上郷友会の集いにも比較的若年の人が少ないように思われる。何故だろうか。

丹波も変った。だが何といっても齢喜寿を過ぎた今、やはり私の脳裏に残っているのは、六十数年前の、あの丹波の本来の懐しい情景である。

むかしの柏原音頭（柏原おどり）

志村勝郎（柏原町）

松づくしの柏原音頭（柏原踊り）が、いつの頃から柏原の町に生れ育ち、町の人々に唄いつがれ、踊られてきたのか、また、いつの頃から、いつとはなしに、すたれていったのか、今となっては知るよしもありませんが、私が幼なかった頃、お祝いごとなどがあると一ぱい機嫌になった父が、よく唄いよく踊っていたものでした。また、この柏原踊りの〃足の運び方〃を図に書いて興味ある人には教えもしていたようでした。私の家とおなじ屋敷町の親戚の杉原のじいさん（このじいさんの崇広の教え子に、永年農林省の農事試験場長を勤めた安藤廣太郎博士がおり、安藤さんは帰郷すると、よく杉原先生を囲んで懇親の会をもっていたようです。このじいさん

のこと、ご年配の方のなかにはご存知の方も多いと思いますが、柏原の建勲神社…柏原藩主、織田家の祖、信長を祀ってある…のお祭りのとき催された稚児（チゴ）の武者行列の太鼓に、より添ってドーン、ドーン、カーチ、カーチとたたいて、この行列が柏原の街々を練りあるくのを盛りあげておりました。このじいさん、少年の頃、鳥羽伏見の戦か、なんかに出陣し、やはり太鼓役で隊伍を鼓舞していたそうです）や、その姉の小松原のばあさん（小松原家は大和の宇陀の頃からの織田藩士でしたが、家が絶えたため志村家から入って跡目を継いだ。このばあさん、娘のころ、夜明け前の京の街々に出没し老舗の古い看板を外して別の店のととりかえるなど大変なお転婆だったそうです）、あるいは八幡神社宮司の千種宇佐美さん（現在の宮司さんは、そのお孫さん）などと大へん、よく気があって、よく唄い、よく踊っていたようでした。

ところで、私は幼な心の片すみに、なんとなく聞きおぼえた、この柏原音頭の歌詞と節まわしを今だに忘れることもなく覚えております（踊りは知りません）ので、今では唄われることも踊ることもなく忘れさられたと思われる、松づくし〝柏原音頭〟を「山ざる」誌上をお借りして記録にとどめて頂ければ幸いと敢えてご紹介することにしました。万が一、あやまりがあると感じられた方がありましたらご指摘のほどを。

（ハヤシ）　サーヨーイ　ヨオー
　　エッサッサーエ　サーヨオー
　　オホホーイ　オホホーイ
一ぽんめには池の松　アラセイ　コラセイ
一ぽんめには池の松　ノホホン　オーオホエー
（以下ハヤシは同じ）
二ほんめには庭の松
三ぽんめには、さがり松
四ほんめには、しがの松
五ほんめには五葉の松
六つ昔は高砂の、尾上（オノエ）の松や、曽根の松
七ほんめには、ひめこ松
八ほんめには浜の松
九つ小松を植えならべ
十で豊久（トヨク）の伊勢の松

宇垣大将参内の車をとめた兄

志村勝郎

最大の軍部クーデターといわれる2・26（昭和11年）のあと組閣された廣田内閣は翌12年1月24日には早くも総辞職に

おいこまれた。

後継首班には下馬評に上った多くの人の中で近衛文磨と宇垣一成の呼び声がもっとも高かったが、軍部の中堅層には近衛への期待にくらべ、さきに軍縮を断行した宇垣内閣の出現には絶対反対をとなえる者が多く、宇垣内閣がもし成立すれば不測の不祥事がおこりかねないとの観測も流れていた。

廣田内閣総辞職の日の夜、伊豆長岡で悠々自適の生活をしていた在郷陸軍大将、宇垣一成のもとへ百武侍従長から後継内閣組閣の大命降下を意味する宮中へのお召しの電話があった。宇垣大将は直ちに車で長岡を出発、沼津で列車にのりかえ終点横浜で下車、ふたたび車で深夜の京浜国道をひた走り参内して組閣の大命を受けた。

この夜、東京の憲兵司令部には「宇垣大将、沼津から列車で上京、午前零時横浜駅着」との知らせが三島憲兵分隊から入り、憲兵司令官中島今朝吾中将は寺内陸相に報告、これをうけ寺内陸相は中島司令官に陸相官邸への出頭を命じた。陸相官邸への出発に先だち中島司令官は司令官官舎に副官の志村行雄憲兵大尉を呼び、陸相官邸への同行を命じ、外に憲兵一名とともに、いずれも私服で随行することとなった。午後11時頃、陸相官邸に到着、中島司令官は寺内陸相から「宇垣大将に対して組閣の大命を辞退して頂くよう説得するように」との命を受けました。志村副官によると「宇垣大将は横浜から車に乗りかえて参内されるとの情報を得たので、今から京浜国道を下ると、どの辺で宇垣大将の車にあえるだろうかなどと考えているうち六郷橋の手前で道路工事のため片道通行しているところがあった。この六郷川鉄橋左岸河畔で待つことしばし、夜半12時を過ぎた頃、宇垣大将の車ではないかとみられる車が近づいた。志村副官が手をあげて停車を命じ運転者にただしたところ宇垣大将であることが確認され、中島司令官に報告した」。

中島司令官は、憲兵司令官の中島中将であること、ご参内の前に意見具申をしたいこと、そのため閣下の車に同乗を許して頂きたいことなどを告げ、宇垣大将の車に同乗を許された。車中、中島司令官から「閣下が組閣されることに対し陸軍全体として反対の空気がつよく不測の不祥事がおこるおそれもあるので組閣の大命を拝辞されるようご配慮下さい」との意見が述べられ、大将からは「承わりおく」旨が述べられ、泉岳寺付近で中島司令官を降ろし、宇垣大将はそのまゝ宮中に参内し組閣の大命を受けた。……しかし、その後、事態の収拾はつかず、四日後の29日宇垣大将は参内して組閣の大命を拝辞し、国民が待望していた宇垣内閣は流産となった。

当時、以上のような動きがあったことは、かなり広く知られているところであるが、このことが次の著書にかなりくわしく述べられている。

書名　〝個性派将軍中島今朝吾〟
　　―反骨に生きた帝国陸軍の異端児―
著者　木村久邇典
発行所　光人社（千代田区九段北一―九―一一）
発行月日　昭和62年12月10日

なお同書によると中島中将が、日中戦争が深刻さを増していた昭和13年夏に中国を転戦中の師団長として、大本営や政府首脳あてに停戦、和平要請の建白書を提出した事実があり、昭和56年12月6日付の朝日新聞は「無視された和平建白、昭和13年中国前線師団長の直訴実らず」と報じている。また、防衛庁戦史室によると「戦場にいた師団長のような将軍が、和平を主張した記録は皆無に近い」とのことである。

以上述べてきたなかで、〝宇垣大将の車の停車を命じ云々……〟の当事者として登場する憲兵司令官専属副官の志村行雄は私の次兄で、先祖以来300年も前から住みついている柏原町屋敷町の生家に今も元気で暮している。崇廣小学、柏原中学（有田喜一さんの一年下）を経て、陸軍幼年学校、陸軍士官学校（36期）へ進み、歩兵科からのちに憲兵科に転じた。中島司令官に可愛がられたこと、司令官にズケズケ意見具申して容れられたこと、酔っぱらって司令官の膝を枕に寝てしまったこと、宇垣さんの車をとめたこと、二・二六事件に際しては反乱軍将兵の取調べに当ったことなど酒の肴に兄からよく聞かされたものである。中島さんのあと田中静壹、藤江恵輔各中将（この二人は後に大将）、あわせて三人の司令官に副官として仕え、その後、内外各地の憲兵隊、憲兵隊司令部、特別警備隊司令部などをわたり歩いた。終戦時にいた奉天からソ連に抑留されて数年を過し、昭和25年に中国に引渡されて32年の釈放まで永年の抑留生活を余儀なくされ、33年4月下旬終戦後13年ぶりに帰国した。

六〇歳代半ばの手習い

志村勝郎

昭和五十一年秋に三十四年間務めた農林省を退職し、その後、競馬に関係のある研究所や会社などに勤めておりましたが、六十年六月に職を退きましたので、三か月後の十月初めから、東京都立、中野高等職業技術専門校に入校し、高齢者向け長期コースの表具、表装の実技教育を受けました。願書を出したところ、二十五名の定員に七十名を超える三倍の競争率となり適正テストでふるいにかけられました。幸いにもこのテストにパスし、六十一年三月までの六か月間、延べ八〇〇時間にわたって基礎からみっちりたたき込まれました。指導に当られた講師の先生方は、その昔、親方のもとに、い

わゆる小僧として弟子入りをし、かん難辛苦に耐えて技能を磨いた方々ばかりで、きわめて厳しい訓練でしたが、なんとか終了することができました。また、入校した人々の前歴は多岐にわたり、かつての仕事とは全く関係のない人との新しい付き合いも始まりました。

職業技術専門校では、ふすま張り（普通のふすまのほか、天袋、地袋、戸ぶすまなども含め、骨の組み立てから実習し、とくに張り替え実習を頻繁に行う）、障子（特殊な障子を含む）張り実習、壁装（現在生活様式で需要が多い）実習のほか、掛け軸、びょう風、額（普通の額のほか、色紙額なども含む）などの作り方のすべてについて幅広く訓練を受けました。

ここでの訓練が終了しますと、最寄りの区や市などの高令者事業団に入会（自分に出来る技能を登録しておく）してふすまの張り替えなどの仕事をする人も多く、また、表具師として開業している人もけっこういるようです。

掛け軸には書や画の表装だけでなく、色紙掛け、短冊掛け、扇面掛けなども作ることができ、かなり多様で、楽しいものですが、私は主として、掛け軸作りを楽しみ、勉強し続けていきたいと考えています。

表装などの仕事は、掛け軸の場合、裏打ち（肌裏、中裏、総裏）、切り継ぎ（一文字、中まわし……柱・上下、天地）、軸の幅決め、耳折り、軸袋・八双袋の取り付け、耳すき、八双と軸棒作り、風帯作り、軸棒と八双の取り付け、風帯の取り付け、環打ち、紐付け（掛け緒、巻き緒）など、軸として仕上げるまでの工程が複雑で細かく、何分何厘という仕事の細かさもあって、こまめに手先や身体を使い、細かく神経を集中する必要がありますので、ボケ防止にこれ程よいものはないのだそうです。

さて、私が勉強を続けていきたいと考えております掛け軸づくりの職業技術専門校での教育は、この様な手順でやれば仕上げることができるといったことを紙表装で数本の軸を仕上げることによって教わる程度であって、自分が一人立ちで自信をもって作れるようになるのは遥か彼方にあるといえましょう。

そこで同校在校中から同校講師の先生の個人教室に数人のグループで通い、どんすなど西陣織りなどの裂地（きれじ）を用いる本式の裂地表装の技術を基礎から本格的に習いました。

そして六二年三月下旬、先生の強い勧めもあり、日本橋本町の小津ギャラリー（三越本店の近く）において教わってきた成果をグループの軸装作品展として発表しました。会場で数多くの方にご覧頂きましたが、私がまさか表装を手掛けるなどと予想もされていないだけに、短期間の私の勉強の成果

である作品の数々を見て、驚かれたり感心されたりしました。（余談でありますが、会場で色紙掛けや短冊掛けなどを即売したところ、お買上げのご希望が多く、準備した分だけではご要望に応じられない有様でした。）

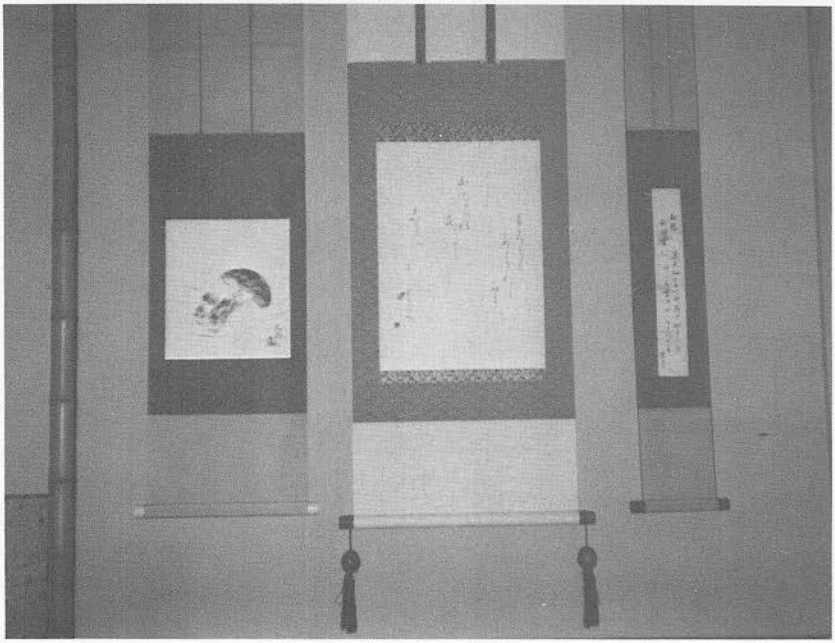
もともと、趣味の範囲をこえて仕事をしようとは考えておりませんが、最近は知り合いの方々から依頼を受けますので、期限をつけずにお引き受けし、気の向くままに取り組んでおりますが、暇をもてあますことがなく、あわせて、作りあげることの楽しみを味わいながら、過ごしている今日このごろです。

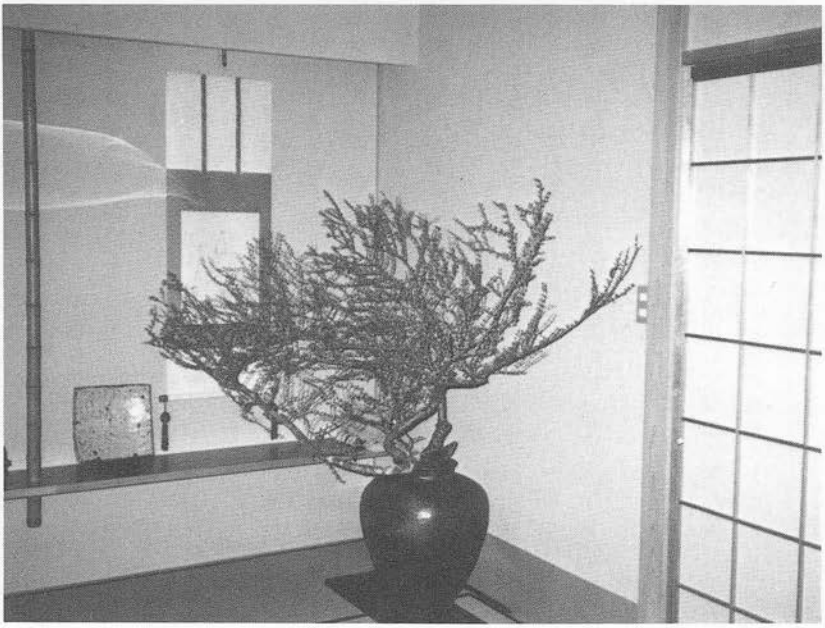
ついでに、付け加えますと、六二年春、叙勲の栄に浴した親戚から、叙勲のお祝いを頂いた方へのお返し（自分で揮ごうした色紙を添えるなどして）に色紙掛けを是非にと頼まれましたが、従来、このような場合、お盆とか花瓶など、ありきたりのものがお返しとして、使われていたことなどから、お贈りした方々から大変な好評を頂いたとの知らせを受けました。

なお最近ワープロを購入しましたが、表装の勉強とは別に、これから、大いに、これを活用して今まで考えていながら、実行していなかったことなどを頭の体操かたがた、取りまとめてみたいと思います。

写真四葉ご参考までに添付いたしました。

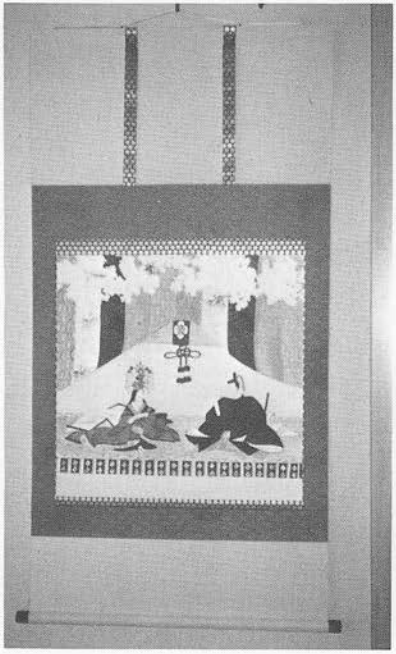
〔写真一〕





〔写真二〕

〔写真三〕



〔写真四〕

写真説明

〔写真一〕

右は短冊がけ、左は色紙がけ。色紙は常岡文亀画伯の「松茸」。常岡画伯と私の長兄亡輝彦は崇広小学校同級生。（柏原中学は一期下）

〔写真二〕

村上さん（桂工務店社長）に昭和六十年に建てて頂いた私宅一階八畳間。

壷は室町末期の古丹波。いけてある「落葉松（からまつ）」は家内慶子の作。

〔写真三〕

亡父志村猪三郎（明治元年生）が昭和初年に揮ごうし、末表装のまま残されていたのを死後五十数年ぶりに表装した。右は頼山陽の詩。亡祖父は幼少時藩主のお小姓をつとめたが、父は元藩主、織田信親子爵のほか、田艇吉（元氷上郡長）、田健次郎（元農商務大臣、台湾総督）の両兄弟とは生涯親しく交際していた。

また崇広高等小学校へ十才で入校（柏原中学入学前に天田郡中六人部村小学校を了えてでてきた）した芦田均少年（元総理大臣）を教えた。

〔写真四〕

亡母とく（明治十二年、元篠山青山藩士赤井家で生れた。赤井家は黒井城主赤井悪右衛門直正の末えいで、近衛家とは姻せき関係にあった）が初節句の祝として、その祖母からもらった掛軸でボロボロに破損していたが、仕立てなおしたら色もあせず一変して新品同様となった。内裏様が現在とは左右逆になっていることが特長です。母の生家の近くに安藤紀三郎陸軍中将がおり、幼な友達だった。

「ふみよ会」について

池上亘泰（氷上町）

「ふみよ会」とは昭和二十三年に柏原中学校か柏原高等女学校を卒業した者及び昭和二十四年に柏原高等学校を卒業した者のうち東京地方に在住している連中で結成している会の名称である。二十三は〃ふみ〃又二十四は〃ふよ〃と呼べるのでこれを合成して「ふみよ会」と名付けた。会員の神田敏博君の発案で会員の賛同を得たものである。

我々は太平洋戦争の真最中の昭和十八年四月に柏原中学校、柏原高等女学校に入学した。

その後、都会からの疎開が始まり同級生の数は倍近くに増えた。終戦後の学校制度の改革により、旧制度から現行の制度に変ったことは衆知のことである。我々は昭和二十三年旧

制度の柏原中学校及び柏原女学校の最後の卒業生となった。同時にその年の四月には既に発足していた新制柏原高等学校（今ではこの名称は陳腐化し単に柏原高等学校と呼ばれている）の三年生に編入され翌年三月新制度の高校第一回卒業生となった。全く変化の激しい中学校、高等学校時代を過したもので、同級生でありながら卒業が二年に分かれた年代でもある。

学校生活も全く変化に富んだものであった。中学校二年生になると戦争はますます日本に不利となり、燃料用としての薪や炭を作るため鐘ケ坂の鬼のかけ橋近くの山奥までかり出され今にして思えばいわゆる強制労働に従事させられた。中学校三年生の時には都会への空襲が激しくなり軍需工場の疎開が始まった。柏原中学校、柏原女学校にも尼崎にあった東洋ベアリングという会社が移って来て学校内の半分程の建物は工場にと姿を変えた。おまけに我々はこの学校内の工場に徴用され、他の従業員と同じく一週間毎に昼と夜の勤務の変る二直勤務に組み込まれ、即成の旋盤工、研磨工等としてボールベアリングの製造に従事した。

当時の夜勤で眠たさをこらえながら作業をした苦しさは今なお鮮明な記憶として残っている。幸か不幸か約半年後昭和二十年八月に日本は戦争に敗れ、我々もつらい二直体制の労働から開放され、本来の学業に戻ることになった。しかしながら戦争は終り、平和が戻ったといっても戦争によってもたらされた食糧難は一段と厳しくなり、今度は空腹との闘いが待っていた。

山奥での激しい労働、二直体制労働の眠たさ、空腹との闘い、これらが我々中・女学校時代の思い出である。時折、新聞に「この年代の人たちは成長時に栄養分が極度に不足していたゝめ血管の発育が十分でないため、循環器疾患で早死にする確率が高い」などと書かれていることがある。激動の時代に青春の初期を送った、ある意味で最も損をした学年であるかもしれない。

五年程前に西脇に住んでいる同級生の武田正美君が上京し、新宿のある立派なホテルに二、三日滞在した時、皆に連絡して同級生を集めたことがあったが、これが卒業後久しぶりに東京地方で同級生が集まる機会になった。その後やはり同級生で現在本「ふみよ会」の会長をして頂いている田中篤郎君が関東氷上郷友会の常任理事になったのを機会に同級生の連中に定期的に開かれる郷友会の総会に参加するよう精力的に働きかけ、その結果二年前に本会が結成されることになった。現在メンバーは男子十八名、女子十名である。

本会は同郷同級生の集りであり堅苦しい会則などは一切ないが、時々皆が集り、酒を飲んだり、山登りをしたり、また温泉の一泊旅行をしたりして互に旧交を温めている。関西か

ら同級生が上京して来たのを機会に誘い合って飲み語り合うこともある。

昨年（昭和六十二年）は比較的頻繁に会合を持った。写真は六月に箱根の旧道である湯坂道をハイキングした後、小湧谷近くの温泉で一杯飲んだ時に撮影したものである。

変化は多かったが、決して恵まれていたとはいえない柏原時代ではあったが、改めて遠く離れた関東の地でみんなが集り飲んで語り合うのは本当に楽しい。職業も経営者、サラリーマン、画家、主婦、自営業等多士済済で遠慮のない丹波弁まる出しで語り合うのは苦しくとも夢の多かりし青春時代を呼び起してくれる一服の清涼剤である。今後も大事に本会を育てゝいきたいものである。

ブラックジャックの思い出

岡　吉明（柏原町）

柏原町の一部だけだったかどうか、私の育った南多田では、お正月に限り親公認のトランプゲーム〃二十一合わせ〃を友人たちの家で大体の年齢別のグループになってやりました。もちろんお金をかけるのではなく〃あめ〃をかけるのですが。

今思えば不思議なことですが、カルタ、百人一首等は全く

やらず、ただただトランプのお正月でした。

小学生のころだと思いますが、駄菓子屋には三段位のひな段にアルミの丸いふたのついた四角い透明の広口瓶が並んでおり、それにいろいろなあめがバラで入っていました。十円で二十コ買えます。他にカバヤとかシスコキャラメルとか箱入りもあったのですが、十円で十六コ〜十八コ位で割高のためたいがいはバラのあめを買ったものでした。ゲームでは種類は問わず一コは一コの計算です。順番に親（ディーラー）と子になってあめを二コ三コとかけて遊ぶのですが、正月にかぎっては友だちの家で夜中の一時、二時まで夜更かししても叱られませんでした。もうあめは何度も手を渡り、包み紙が破れてきます。できるだけきれいなあめをわきに取って置き、汚いアメからかけていきます。時には兄のグループに入れて貰ってやるのですが、必ずといっていい程負けて泣き、他人は面倒をみてくれませんので兄のあめを何コか返えして貰って家へ一人泣きべそをかいて帰ったものです。

もう十年以上も前のことです。初めての海外旅行に同業者の人たちと米国へ建築材料、建築方法等の見学に出かけました。その二日目がラスベガスになっておりました。ロスアンゼルスから飛行機で行ったのですが空港ロビーにはスロットマシンが並んでいて、映画で見たとおりの凄い町でした。ホテルの1階にはカジノがあり、世界の金持連中がとばくを楽しんでいます。私たちは夢のようなショーを楽しみながら食事をした後、二、三人でカジノの見学に行ったのですが、目につくのは金持らしい外人ばかり。スロットマシンなら誰でもできるというので10分位やってみたが、パチンコと同じですぐ負けてしまった。同行者とこりゃ駄目だ！　部屋で酒でも飲むか、と逃げ出して帰ったのですが、時間はたっぷりあり、酒もそんなに強くない自分はやはりカジノが気がかりでしようがない。今度は一人でカジノへ。〝ラスベガス〟まで来て何もしないで帰国したのでは土産話にもならない！　チラッチラッとゲーム中の外人客の後に立ちゲームの内容を調べるべくのぞいていると……　どうも自分の知っている〝二十一合わせ〟に似たゲームをやっているコーナーがある。これはヒョッとしたら〝二十一合わせ〟かな？　何となく暇そうなボーイ（？）さんに

ディスゲーム、イズ、ツウエンティワン？

ピクチャーカード、イズ、テンカウント？

などとそれこそ一生懸命英語の単語を思い出して聞くのですがほとんど通じていない。先方も早口でどうにもならない。ゲームは〝ブラックジャック〟と言うゲームらしい。内容は自分の知っている〝二十一〟と同じらしい。少し元気が出てきました。これならできそう。しかし何となく恐ろしい。何といっても言葉が通じない。学校時代もっと勉強しとくのだ

った。いろいろと心が乱れました。
同行者の一人が広いコーナーの一角に見えた。その方は何度か外国旅行をされており、経験豊富、スーッとその方の後に回りまた何分間かわりと安心して見学。〃どうですか？〃などと言葉をかけ、再度ゲームの内容を確認する。ウン、ウン。昔やっていたのと同じだ!! 何とかなる… その方がよして部屋へ帰るので〃この席でやれば！〃との誘い。不安この上ないがやらなきゃ話にならない。
現在ソウルのカジノではディーラーに一万円札を渡すとチップに両替してくれますが、この時は百ドル札を渡してチップを受け取り、さあ開始。とに角緊張の連続で手のひらはあぶら汗でジットリ、気の小さい自分に嫌気がさします。ディーラーが何か言ってもなに言っているのかさっぱり分からない。昔からやっているゲームだから何とか態度で意志表示はできましたが、ゲーム中に皆が笑っても意味が分からないのですから、何だか島流しにあったようで、言葉の分からないハラハラドキドキのラスベガス入門でした。
とに角世界のラスベガスでゲームができた事が大切なのです。忘れましたが多分一時間位でおよそ二百ドルの負け！でも意気揚々と部屋に引上げたのです。
サラリーマンですから余裕のあるお金を持ってもいないし、国内でも日曜日にパチンコをする程度のかけ事以外はやりませんが、その後、海外に行くたびにカジノだけは必ず見学しいくばくかの金で勝ったり負けたり〃ブラックジャック〃を楽しんでいます。
柏原のお正月にやったゲームが世界中のカジノにあって楽しめる。これは楽しい事です。こども時代にやっていない人たちは暗算（21にするための）が遅いためディーラーにせかされ、また同じテーブルのお客にウンザリという目でにらまれたりするのですが、やっていたおかげで配られたカード（札）を一べつするだけで合計数字が分かり即答できる経験（足し算を暗算する以前の計算）から、現在ではカジノへ行っても何も出来ない同行者に得意になって柏原のお正月の話をする次第です。
自分の育った柏原って、進んだ町だろう!!ってね。

思い出すこと

安原　三智子（青垣町）

二年前の事。節分の翌日ハワイへ向って飛び立ちました。ホノルル空港に着いた時は小雨が降っていました。いつもは主人といっしょなのに、今回は娘の初出産のため一人でやっ

て来ました。年末に氷上郷友会で買い求めた丹波の小豆と山芋を少々持参しました。この山芋が通関の時に問題です。荷物の中にすり鉢とすりこぎも入れ、産前産後の娘に食べさせるつもりだったのです。

係員に私のつたない英語力を振り絞って説明しました。西洋系の人は〃ちょっと待って〃と日系人を呼びました。彼も〃よくわからない〃と言いながらも、私の説明をいろいろ聞いて下さり、荷物の中は、他に日本の物ばかりで、あやしい物は入っていない事を知ると、〃ＯＫ〃と通してくれました。感謝感激で、今更ながらこんなものを持参した愚かさを知りました。迎えに来た娘の車に乗ってコンドミニアムへ。部屋に入って荷物を開けるとこれから一ケ月をこゝで過すための食糧（日本食）がぞくぞく出て来ます。出産の手伝いに来たのだからと、毎日買物をしては、全部手作りでときめ込んだのは良いがやはり自分の家と違って思うようにはいきません。でもほぼ準備が完了したころ、診察を受けに行った娘が〃子宮は一センチ位開いているけど、まだ大丈夫〃だってと。それを聞いて昨日町で偶然出会った東京の友人とプールへ泳ぎに行き、話がはずみ夜遅く帰宅した。翌朝、「様子がおかしいから病院に電話をしたら、すぐ来るよう言われたから今から行く」と言う娘。日曜日の朝だったので婿の運転する車で急ぎ入院。外国での出産は初めてなので失礼ながら興味津々。準備室といっても個室で、中に入ると次々に質問したり内診したり、ベッドの側に血圧、心電、心音を計る機械、点滴の器具、テレビ、入口に洗面台、奥にトイレと、全部揃っており、私も婿もいっしょに部屋に入っていました。いよいよ陣痛が激しくなり、分べん室にベッドごと移動する事になった。すべて用意されたものを使用するので、着て来た物、履物、ハンドバッグ等は私が預り、後で部屋の方へ来るよう伝えられたのでロビーで待つ事にした。全く驚いたのは、「産れましたから見に来て下さい」と呼びに来た時です。婿が興奮して話してくれたのは、分べん室へ行く時、医師といっしょにベッドを押して行ったら、部屋の入口で「着る物を持って来るから待っていなさい」といわれ、立っていると直ぐに持って来たのは、帽子から履く物迄全部用意されており、それを身につけマスクをして分べん室に入り、産婦の側で力づけながら、前に有る鏡で、出産のドラマチックな場面を見ていたとの事。頭が少し見え始めたがなかなか出て来ず、そのうち血圧が下ったとか心臓が止ったので酸素マスクを当てたとか、赤ちゃんの心音と妊婦の心臓の動きが側の計器に出るので、ドクターといっしょに目まぐるしい思いで何だか自分がお産をしたような気持だったとか。赤ちゃんが出て来ると、すぐ小児科の医師が診察し、へその緒を切り、布で全身の汚れをふき（初湯は使わない）、手足その他に異状が無いかを調べ

て、小さな台車に乗せ、父親が新生児室まで運んだとの事。廊下でいらいらしながら待っているとばかり思っていたのに、妊婦の手を握り励ましながら、生れ出た瞬間から我が掌中に置いて後、看護婦にゆだねた経験は、口では語れない感激だったそうです。新生児室は、ガラス張り。生れて一時間程は、上部から電気で温められた小さな囲のある台の上に置いて異状が無いかどうか再チェック。こゝはハワイ最大の産院で、一日平均二十人位の出産が有るとか。ずらりと並んだガラス越しの小さなベッドに、親の名前、出産年月日、時間、国籍、身長、体重、主治医名が付けられます。ハワイ程多種多様な民族が住む所は他に有るかと思う位、名札を見ていると、国籍、肌の色が異なり、また外からのぞき込んでいる人達が違うのです。新生児も伏せるか横に寝かすかで眠っている児、泣いている児、外から自分の子供が見えにくい位置にいる時は、電話器が置いてあるのでそれで話すと、窓ぎわに連れて来てくれます。面会時間は父親は制限無し、他は有り。午前九時五十分男児出産で、病室の母親には食事のメニューが届けられ、あれこれ注文して、運ばれたデラックスな食事を全部食べ終ると、一眠りするというので、私と婿は、日本へ国際電話するため帰宅した。二月十一日建国記念日の早朝、ハワイは十日でした。翌朝十時ごろ電話があり、「今シャワーを浴びたの、これから授乳だって」との事。赤ちゃんを病室に連れて来た時は、父親は用意された紙の白衣を着てマスクをかけ帽子をかぶれば、だっこしてもよいが、他の人は入っては駄目。他の人のさわった赤ちゃんは、もう乳児室へ戻せないからとまるで私らはばい菌扱い。しかしこうしておけば親馬鹿の父親は、得意満面で世話をするから〃上手におだてられたお人よし〃と心の中でつぶやいた。

アメリカの法律で、三才以下の子供を車を乗せる時は、後部座席にカーシートをつけ、それに座らせなければならない。それで町で見かける車に時々二つ取付けてあるのは、「三才以下の子供が二人いるのだな」とわかりました。日曜日に出産して水曜日の午前中に退院です。その時にカーシートに座らせないと、お巡さんに見つかると罰金をとられると聞き、何と無茶苦茶!! 生れて三日目でどうして座らせる事が出来るのか。でも大人がだっこしてもいけないので、プラスチック製の寝いすに、タオルでくるんで車の床に置き、まるで犬か猫を内緒で運んでいる様にして、家へ連れて帰りました。でも病院の設備と、しくみには全く感心させられました。産婦人科の医師は、分べん完了と同時に小児科の医師にバトンタッチ。看護婦さんも、次々入れ変り立ち変り。食事は何種類かのメニューで自分で選ぶことができる。病室は全部個室。ベッドサイドに電話が付いており、外へかけるのも自由。ト

イレも洗面台も室内。私物はスリッパーとガウンだけ。退院時には、生れた時赤ちゃんの身長等を計ったメジャー。（記録されている）体温計、ほ乳瓶、ミルクのサンプル袋（三日分位）、アルコール、綿棒、パンパース三十枚入り。母乳を搾り出すもの、妊婦が使用した水差しとコップ（プラスチック製の安物）その他。それらの荷物を全部看護婦が車に乗せて、裏玄関の車寄せ迄運んで下さり、下に置くとさっさと院内へ消えて行った。日本流に〃お礼の心付けは〃と考える暇もなかった。私は昔人間なので、唯あ然として夢を見ているような気持ちで車に乗り帰路についた。

青春虚実　思い出すこと

田中篤郎（市島町）

あれから既に三十年にもなろう。何度か調査の仕事で九州を回ったことがあった。

仕事とはいえ、二度、三度と旅を重ねると旅慣れてくる。気分も落ち付き、時間も余裕ができて、泊った宿の人から土地の面白い話や、名所旧跡を聞き、気が向けば時間をやりくりして、寄り道もしたものだ。

そんな旅をしながら、南九州あたりまで下ってくると、酒がついて回るようになる。それも密造のどぶろくで、味は極上。こんないいやつには宿ではお目にかかれない。こういう酒は家の内でも奥の方の薄暗い倉で、ひそかに眠らせてあるものだ。

調査の仕事で立ち寄った店のご主人と気が合ったりするとどぶろくの上澄みをなみなみとついだコップに、さつま揚げを乗せた小皿を添えて、お茶代りに出してくれる。

当時、南九州では、どの家も自家用のどぶろくを密造していて、各自独自の味を誇っていた。さつま揚げも自家製で、伝統の味をそれぞれ受け継いでいた。

ある店で出会ったどぶろくがあまりにもおいしくて、思わず「ああ、うま」という表情をしたのだろう、店主がニヤリとして、さらにいっぱいふるまってくれたこともあった。全く立つのが嫌になるような酒に出会ったこともある。舌は正直なもの、今でも鮮やかに憶えている。

酒が取り持つ縁で、南九州では、旅館に泊るよりも目当ての店に泊めてもらったことの方が多かったかもしれない。

仕事で旅をしているというより、よい酒に出会うために旅をして、ついでに仕事をしているような、全く申し訳ない状況になっていた。

調査という仕事は、いきなりお目当の店に訪ねて行っても、信用がないうえ、時には税務署の人間ぐらいにみられることもあってうまくいかない。

そこで、その都市の市役所で紹介をしてもらい、そのうえで目当ての店を訪れると仕事はおおむねうまくはかどる。うまくゆかないまでも、お茶位は出してくれる。

市役所から紹介の電話を入れてもらって、ある店を訪ねた時のことである。事前に市役所から電話を入れてもらっていたから、直ぐに若主人に会えた。私より幾分年上のようであった。帳場のある畳敷きの部屋に案内され、そこで坐って話をしていると、お腹の大きい婦人が、少ししんどそうな様子で、「……もんせ」とあいさつされ、私の前にお盆にのせたコップには、淡い黄金色を帯びた液体がたっぷり入っている。若主人が「どうぞ」と勧めるので、私はコップを手にとった。少し濁っていたが、一口飲んで思わず「ああ、うま」と声を出してしまった。若主人はニコニコしている。それからはお互いの垣根がとれて、いろいろな話に弾みがつき、ついつい時を過ごしてしまった。長居を詫びて帰ろうとすると、今夜は泊ってゆけと言う。そして、奥に声をかけると、若奥さんまで出てきて、私を引き留めた。夕食の時、ご両親や妹さんに紹介された。父君は無口な人だったが、食事中は絶えず穏やかな笑みを浮べておられた。母君はたいへん快活で話し好きの人だった。こちらの方言での話しだから半分も聞きとれなかったが、明るい主婦のいる家庭は暖かくて居心地がよかった。さきに頂いた酒を何度もお代りしながら、遅くまで話し込んだ。そのうち、座を立たれたお父さん代わって、妹さんが話に加わり、京都のことをあれこれ聞きたがる。私も一杯気嫌で、虚実を交えて話すもんだから、妹さんは、だんだん調子を合わせてきて、一度京都に行ってみたいなどと言い出し始める。六本木調で表現すると、「ドヒャー、京都かァ、ナウイじゃん。一度、京都してみたいもんね」。正にキラキラと輝くような好奇心の強い娘さんであった。初めのうちは、笑いながら聞いていたお母さんが、そのうち方言で、何を言ったか判らないが、娘を叱るような口調でひと言ふた言いい、それに娘さんが口答えをしながら、その間も盛んに京都のことを聞きたがる。そのうちに、お母さんが何か言った。意味は判らないが、「どこの馬の骨か分からん者の話に乗るあほうがあるか」と叱っているようだった。しばらくは、娘さんもおとなしくなるのだが、またぞろ、心が動くのか知らない土地の話を聞きたがる。お母さんが座をたった時、いっぺん一緒に京都へ行けたら、どんなにか楽しかろうとゆうようなことを言った。私も、京都を案内してあげられたら楽しいだろうなあ、と酔った頭で思った。

しかし、娘を思うお母さんの気持も理解できるので、心な

らずとも断った次第ではあった。「ねえさん。私のような流れ者の話を本気にしちゃいけませんよ」と諭すと、ハラハラと涙を流す、といった愁嘆場は全然なかったが。

朝食を頂いたあと、昨夜からの厚情を謝し、またご無礼を深く詫びて、その家を辞した。昨夜の活発な娘さんは、何故か、顔をみせなかった。淋しいような、惜しいような思いでバス停に向ってできるだけゆっくり歩きながら、一、二度振り返りもしたが、ついに姿を見ることもなかった。

バスに乗り込んで、何気なく、窓の外に目をやると、バス停前の家の陰にあの娘さんがたたずんでいるではないか。驚いて声をかけようと、窓を開けかけたが、バスは無情にも動き出した。せめてもと思い、手を振ってみたが、娘さんはたたずんだまゝじいっと私を見詰めているばかりであった。やがて土煙の向こうにその姿は消えてしまった。

バスの揺れに身を任かせていると昨夜からのことが次々思い出されて、切ないものが胸にこみあげてくる。もう一度会いたいなあとただむなしく娘さんの顔を脳裏に描き続けているより仕方がなかった。

南九州の空は、あくまでも青く晴れわたり、さわやかな朝であったが、私の心は外の風景のようには明るく晴れることはなかった。

新しい田園文化都市への出発
ホロンピア'88

関東氷上郷友会会則

（名　称）

第一条　本会は関東氷上郷友会と称する。

（目　的）

第二条　本会は会員相互の親睦を図り、併せて郷土の発展に資することを目的とする。

（会　員）

第三条　本会は氷上郡出身者及び縁故者を会員とする。

（役　員）

第四条　本会に左の役員をおく。

名誉会長　一名　　常任理事　若干名
顧　問　若干名　　理　事　若干名内二名会計担当
会　長　一名　　監　事　二名
副会長　若干名

（役員の任務）

第五条　会長は本会を代表し会務を統轄する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは副会長の互選により一名がこれに当る。常任理事及び理事は会務を執行する。監事は会務及び会計を監査する。顧問は会長の諮問に応じ本会の発展を促進する。

（役員の選出）

第六条　会員及び役員は総会において選出する。顧問は理事会の推薦により委嘱する。

（役員の任期）

第七条　役員の任期は二年とし、重任を妨げない。

（役員の報酬）

第八条　本会の役員は総て名誉職とする。

第九条　会議は総会と理事会に分ける。総会は毎年一回十一月に開き必要に応じ臨時総会を開催す。理事会は会長、副会長、常任理事及び理事を以って構成し、必要に応じ会長が招集して開催する。

（会　費）

第十条　本会の会費は年額一〇〇〇円とする。別に必要に応じ理事会の決定による額を徴集することができる。

（寄附金）

第十一条　寄附金は理事会の承認により受納する。

（会計報告、会則の改正）

第十二条　本会の会計年度は毎年十月一日より翌年九月三十日迄とし、会計報告は十一月の総会において行なう。本会則の改正は総会の議を経て決定する。

昭和62年11月21日

会　計　報　告　書

（昭和61年10月１日～昭和62年９月30日）

関東氷上郷友会
会計監事・足立和巳

収入の部			支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
繰越金	1,777,685	現金34,062　普通預金97,193 定期預金1,115,349 振替預金531,081	出版費	927,332	“山ざる18号”製作および発送代
年会費収入	482,000	延246名	通信・印刷費	310,650	総会、役員会、理事会等案内状印刷発送
総会費収入	450,000	90名	総会費	665,960	於　九段会館
役員会費収入	132,000	延44名	長寿祝費	147,400	祝寿祝品および発送費
編集会費収入	0		会議費	331,170	新春役員会、山ざる編集会議、 常任理事会等
寄付金	282,000	延25名	慶弔費	45,000	故西川政一氏 故小林武治氏 } 生花、笹倉強氏祝花
広告料収入	1.192,000	延93名	支払手数料	12,560	郵便振替手数料
雑収入	72,227	預金利息他	消耗品費他	17,070	丹波新聞新年広告、事務用品等
			繰越金	815,421	現金264,252　普通預金97,420 郵便振替貯金453,749
			定期預金 計上取消	1,115,349	従来の会計報告には計上していたが実質入金されていないので今回の会計処理で取消した（理事会承認済）
合計	4,387,912		合計	4,387,912	

寄付金 報告

◎梶原　清殿　五〇〇〇〇円
◎伴仲信次殿　五〇〇〇〇円
◎足立三治殿　三二〇〇〇円
◎渡辺紙工業株式会社殿　三〇〇〇〇円
◎有田郁代殿　二〇〇〇〇円
◎足立石蔵殿　一〇〇〇〇円
◎大西俊治殿　一〇〇〇〇円
◎荻野一雄殿　一〇〇〇〇円
◎小森健吉殿（氷上町長）　一〇〇〇〇円
◎須原　清殿　一〇〇〇〇円
◎谷垣正雄殿　一〇〇〇〇円
◎丹波新聞社殿　一〇〇〇〇円
◎村上末吉殿　一〇〇〇〇円
◎山口　茂殿（氷上町議会議長）　一〇〇〇〇円
◎柳田昌三殿（氷上高校長）　五〇〇〇〇円
◎池上亘泰殿　五〇〇〇〇円
◎堀井隆川殿　五〇〇〇〇円
◎安達陽一殿　四〇〇〇〇円
◎足立源治殿　一〇〇〇〇円
◎岩村丈子殿　一〇〇〇〇円
◎梶村ムツ殿　一〇〇〇〇円
◎畑　秀夫殿　一〇〇〇〇円
◎谷　郁三殿　一〇〇〇〇円
◎三井治雄殿　一〇〇〇〇円

郷友のみなさまへ

「山ざる」誌は、編集委員のボランティア活動によってつくられています。

何度か編集会議を開いて方針を決め報告事項や原稿を分担、手分けして各郷友にも依頼します。

集まった原稿の監修校閲を足立源治さん、会員名簿や消息の整理から発送業務の管理を坂上勝朗さん、「丹波の動き」の編集や校正事務を鶴田ゆき子さん、年会費や金銭出納関係の報告を足立和巳さん、そのほかの委員も原稿を書いたり集めたり、ときには広告依頼にも奔走します。装幀・割りつけから用紙・印刷・製本等、本づくりを安くあげるための交渉や進行を渡辺隆男が担当し、活字組版は本職の田中寛さんが出血の原価で協力、といったぐあいです。原稿料などももちろんなしで、イチモンにもならないばかりか何かにつけて足の出る仕事を、みんな喜んでやっていただき、毎年こんなにすばらしい会誌ができます。郷友ならばこそ、ほんとうに有難いかぎりです。

◇

「山ざる」誌は毎号、会員名簿記載の全員に配送しています。その原価にかかる資金源は、会員篤志家の寄付金や有志の協賛広告料、および郷友会会費の一部等によって賄われています。そのあたりどうかご理解のうえ、今後ともご協力方ぜひお願いいたします。

◇

郷友会の会員名簿は一年おきに改訂し、その間に出郷された氷上郡出身者および縁故者を自動的に加えておりますので、

とくに入会・退会等の規定もありません。地域も関東を中心としてはいますが、必ずしもその限りではありません。記録もれの方、物故者などまた記録に生年、出身地、そのほか記載のない方も、ぜひ事務局宛または振替用紙通信欄などでおしらせ下さい。

◇

従って年会費の一〇〇〇円は強制的なものではなく、会の通信費、山ざる誌の協力金とご理解いただき、お手数でも何とぞご援助願いあげます。必ずしも過去にこだわらず、今年、六十三年度分からでも結構です。年度を明記のうえ、二〜三年分まとめてのご送金や別途寄付金なども大歓迎です。年会費の領収は会員名簿中に表示します。当会の運営資金は目下、必ずしも潤沢ではありませんが、みなさまのご協力のもと、同郷者にいささかでも心の糧を贈りつづけたいものと、関係者一同願っている次第です。

（渡辺隆男記）

ゴルフ同好会 報告

氷上郷友会会員名簿の趣味欄に記載されたゴルフ愛好者は約百二十名、記載のない潜在愛好者も含めると二百名に近いはずである。

「ゴルフの唯一の欠点は、おもしろすぎることだ」と、だれかがいった名言があるとおり、とくにこういった同郷者のコンペは、また格別の楽しさがあり、出はじめるとやめられない。いきおい常連になりがちで、それもよいのだが、新人やビギナーが加わることによってさらに活気がでるというもの。大いに会員に呼びかけようというわけである。

これまでは名門コースでウィークデイにやろうという方針であったが、それもよいが、土日でないと出られない人もあろうし、今や必ずしも名門にこだわることもなかろう、という声もある。また賞品は豪華にしろという意見もあれば、一方では形だけでよろしい、参加することに意義あり、会費は安い方がよいという主張もある。そのあたり再検討し、新方針のもと広く会員に呼びかけることとなった。ご期待いただくとともに、足立謙悟宛、ご意見、参加希望など大いに寄せられたい。

昨年から今春にかけての氷上会コンペ並びに成績は次のとおり。

第二十七回　六十二年三月二十四日
袖ケ浦カンツリー倶楽部　16名
優勝＝村上　昇　2位＝早瀬徳郎
3位＝渡辺隆男　BB＝伴仲和子

第二十八回　六十二年六月九日
平塚富士見カントリー・クラブ　11名
優勝＝村上　昇　2位＝金川雅美
3位＝早瀬徳郎　BB＝大根川総子

第二十九回　六十二年九月十六日
飯能ゴルフ倶楽部　16名
優勝＝足立　正　2位＝神田敏博
3位＝早瀬徳郎　BB＝川畑明光

第三十回　六十二年十二月八日

真名カンツリー倶楽部　16名
（伴仲会長追悼コンペ）
優勝＝上田　脩　2位＝金川雅美
3位＝早瀬徳郎　BB＝渡辺貴美子
第三十一回　六十三年三月十八日
厚木国際カントリー倶楽部　15名
優勝＝田中篤郎　2位＝上田　脩
3位＝足立謙悟　BB＝渡辺隆男

氷上囲碁会報告

62年度は10月に伴仲会長の急逝というショックに逢いましたが、碁会は一回も休むことなく開かれ、会員相互の手談に花が咲きました。参加各位の62年3月から63年2月までの年間成績は下記のとおりです。

なお、囲碁会は毎月第二土曜日午後一時より、春日建設B1かすがホールにおいて開かれています。参加費は当日持参で千円。お問い合せは☎〇三一二六四一四〇一一春日建設㈱小日向。

囲碁同好会年間成績表（勝数順）　62・3～63・2

参加者	勝	負	ジゴ	参加回数	備考
藤田	33	33		12	
前川（義）	25	28		12	
足立（源）	21	11		10	
小日向	20	19		8	
上光沢	20	40	1	12	
坂上（勝）	19	29		11	
足立（正）	18	15		7	
三浦	16	10		7	
谷口	15	3		4	
増田	14	13	1	7	
畑	3	0		1	第2回会長杯　優勝
稲次	3	0		1	準優勝
山田	2	1		1	3位
勢川	2	1		1	
前川（清）	2	1		1	
三沢	2	1		1	
近藤	1	9		3	
新島	1	0		2	

村上末吉氏の個展

十月十九日から二十四日まで、神田小川町の草土舎画廊で村上さんの油絵によによる個展が開かれた。

「老後の楽しみを見出すために油絵の練習を、自己流で始め三十枚ばかりたまりました。

何故に　独り美しく咲く　野辺の花が主です」

この案内状にある句は個展のタイトルでもあろう。

豪華に咲き競う花々よりも、野の一隅にひつそりと咲く花を空気どとそっと掬いとったような、小品ながら愛情の滲む好作品群であった。

「たくさん描かなきゃ」と会場で力説する村上さんだが、多作でも流石に建築家、見えるものは徹底して描いてごまかさないぞ　の姿勢がうかがえる。

適度の明るさとやわらかさ、つやゝかな雰囲気の中にも、ねばり強く対称に向かう一途さがそのまゝ絵になって迷いがない。つまり、村上さんの人柄丸出しなのであろう。

全作品売約の盛況で、会場では夫人が受付から茶菓の接待までされて心暖まる個展であった。

常岡幹彦氏個展

玄に向って ――日と月と ――

昭和六十二年十一月三日から十五日まで、常岡さんの個展が東京セントラル絵画館で開かれた。「月響」（写真）、北涛」、百号の大作二点のほか、50号～25号が二十四点、本誌の表紙を飾ったのもその一つである。

玄に向って―日と月と―というテーマのとおり、いずれも日か月またはその光影が主題に描かれたが、この「玄に向って」というのはどんな意味をもつのか。従来の手法を破って玄なるものの世界を描き出そうとするのか、従来の意図をさらにのり超えて悠久なる玄の境地に参入しようとするのか。

「玄」とは古来中国でいう「黒」のことである。単純な黒ではなくて、色彩のすべてを包含する黒である。つまり暗い夜空の黒、宇宙の色である。玄人（くろうと）、素人（しろうと）というように、素は白で、何もないもの、玄はその反対に何でもあるもの、つまり玄は大きく深く豊かで、万物の行きつく至上の世界なのである。

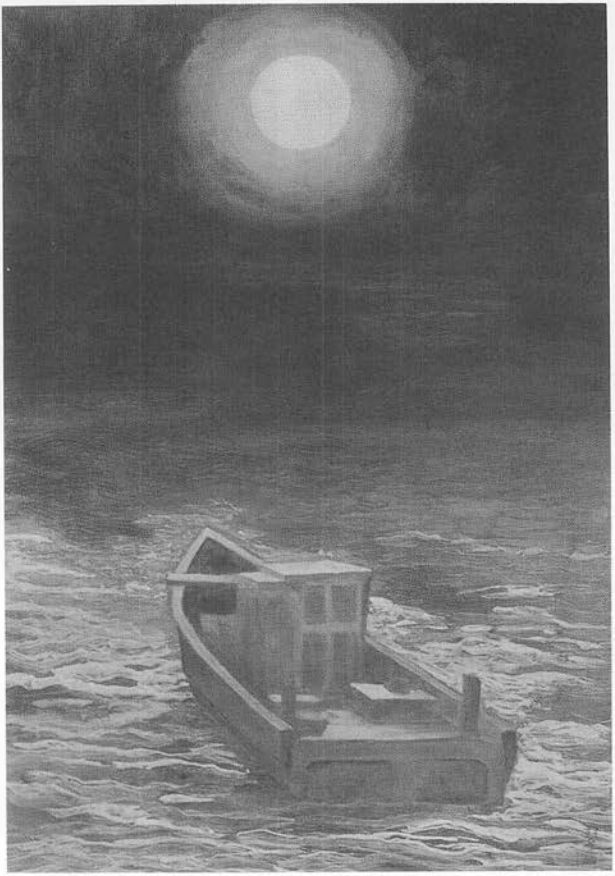
常岡さんがその「玄」に向って、いったい何を描こうとするのか。その意図はおそらく「月響」、「北涛」の二点の大作に込められたにちがいない。この二点はいずれも荒いタッチの重厚な墨で描かれていた。

「月響」は、月光のもと無人の小舟が宇宙と大海の間、無限の彼方へと漂う図、「北涛」は、北海の巨涛にたわむれる数羽のかもめを描いたもの。彼はこの二点の大作に〃はかなき人生〃に対比させて

大自然の〝大いなる力〟をうつし、〝悠久の時〟をきざもうとしたのではなかったのか。伝統的な日本画、つまり装飾的かつ女性的な日本画を逸脱して、そこに強靱な精神性を追求しようとしたのではなかったのか。

古今東西を問わず、絵画の究まるところは強い精神性ないしは深い心情の表現にこそある。五十七歳の常岡さんがいま、その「玄」に向って挑戦を開始されたのは、けっして遅きにすぎたとはいえまい。歴史に残る名作は、晩年に描かれた作品に多く見られるからである。

「玄」に向って―その二―とする次期個展は来年の五月九日～二十一日、東京セントラル絵画館で開かれる予定。乞御期待。（写真は個展会場にて、向って左から杉山寧氏、常岡さん、同夫人）（玄二）



可部美智子さんに
文部大臣奨励賞！

郷友・可部美智子さんの陶彫人形は今年も祝寿者への記念品として贈呈、とても喜ばれているのだが、その可部さんが昨年、第17回陶光会全国陶芸展に出品した陶彫人形〝みのり〟(写真右)に対して「文部大臣奨励賞」が与えられた。工芸分野の大きな賞である。

昨年九月下旬に赤坂の乾ギャラリーで彼女の個展があるというので、会友有志十余名が集まり、個展観賞のあとさゝやかな受賞祝賀パーティを開き、大いに激励した。はにかみ屋の可部さんは「陶芸をはじめて二十年余、まだまだ未熟でお恥かしい限りなのに、こんなにまでしていただいて……、でもこの仕事は楽しい、人形の心との対話ができて……、愛情のこもった、もっともっとよい作品を生涯作りつゞけたい」と、恐縮しながら謝辞を述べられた。

一見、無造作な土人形だが、その姿態にはどことなく郷愁が漂よい、その表情にはほのぼのとした童心が浮かぶ。可部さんが語るように、それがまさしく〝愛情〟であり、作者心情の吐露にかゝわるものにちがいない。

かの円空は、木彫に鋭利な一刀を駆使して仏心を表出したが、可部さんはさすがに女性、土にへらでデリケートな線条をきざみ、童心を追求する。この芸は円空に通じるものがある、とするのは称えすぎだろうか。少くとも同質の芸境であ

展示会場（右から三人目が篠原さん）

ろう。さらに精進を積まれて、円空の向うを張っていただきたいものである。〃童心〃は人間の本性であり、失せることのないもの、人は晩年再び童心に帰す、という。

（玄二）

私の刺繍作品展

篠　原　よね子

三越・東急・京王と各デパートで開催した展示会も今回で第七回目を迎えました。

今回のメインテーマを『県花で飾る日本列島』と題して四十七都道府県の県花を私のオリジナルデザインで製作し、会場の列島パネルに飾りました。もちろん私の教室の特色の〃山水〃その他の一般作品の展示もそれぞれ百数拾点同時に展示いたしました。

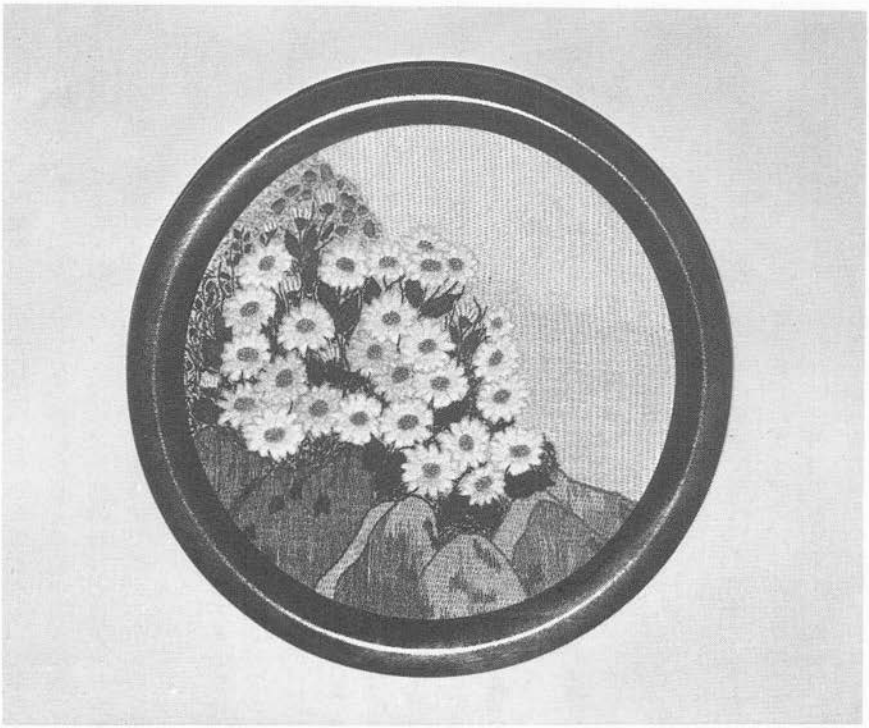
ＮＨＫテレビ関東甲信越ネットワークのほか、読売、毎日、サンケイの各紙で招介していただいたこともあって都内だけでなく近県からも多数の方々にきていただき、特に最初の日などは大変な混雑となるほどで御蔭様で盛況の四日間を終ることができました。

楽しいとき、悲しいとき、そしてほっとひといきついたとき、だれでもなつかしく想い出すのが故郷の山河です。私の教室の人達もそれぞれの故郷に想いをはせて一刺し、一刺し、針をはこんだはずです。そして御来場の方々も自分の故郷の花を、また御世話になった人にその故郷の花を贈り物にしてと、花額の追加注文や写真集をお求めになりました。

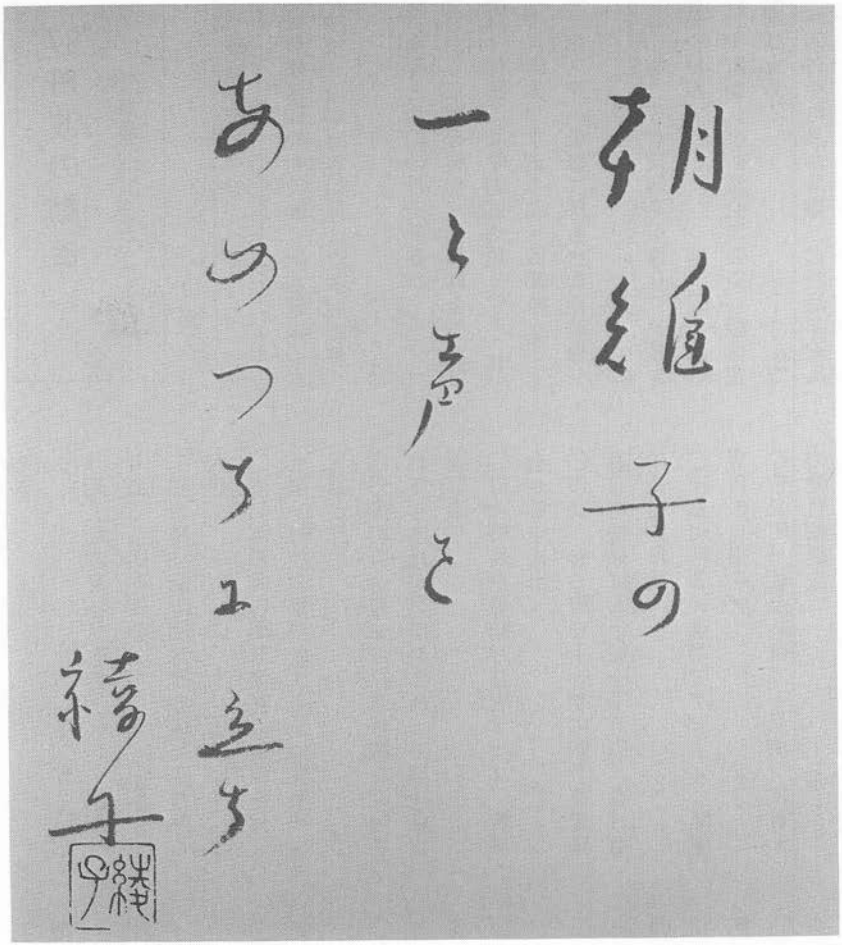
兵庫県の県花は「のぢ菊」です。岩かげに、楚々として、そして力強く咲くのじ菊に日本海を配したデザインといたしました。

今年は東急で第八回を開催する予定です。新しいアイデア、ユニークな企画で飾りたいと思っております。郷友の皆様の御指導と御力添えをお願いいたします。

篠原よね子刺繍展・県花で飾る日本列島　兵庫県は「のぢ菊」



朝雉子の　一と声を　あめつちに立ち　綾子



細見綾子さんの色紙

細見綾子さんは昨年めでたく傘寿をお迎えになりました。氷上郷友会でも昨秋の祝寿会にお招きしたのですが、ご都合で残念ながらご出席いただけなかった。そこでとくにお願いして近作の句を色紙に書いていただき、それを複製して当日総会の出席者全員に贈りました。

朝霧の丹波の山合に、ひときわかん高く、そして冴えたあのキジの一声、何とも胸のすくような、やる気の湧き出るような、われわれだけのもののような、すばらしい一句です。

事務局にまだ若干の残部がありますので、ご希望者に無料で進呈（渡辺隆男氏寄贈品）いたします。但し送料実費二〇〇円を切手でお送りください。

'87丹波の動き

丹波新聞の見出しから

政治・行政

○緑農住区開発を計画　用水確保にダム建設　山南町谷川地区で事前調整　（1・8）

○丹南町と西紀の丹南教委が　ドラマ「雪割り草」を製作　出演は全員が町職員　住民同和学習に活用　（1・15）

○市島町簡易水道の北・西部給水が完成　南・東（低区）部も水源地確保　（1・18）

○篠山町北庁舎周辺を公園化　タイル舗装や植栽で　（1・22）

○丹南町総代会が議会に要望　議員定数削減求める　（1・25）

○河南丹南町長が辞職　参院選挙違反事件で上告棄却が決定　町の内外に衝撃波　（1・29）

○天王坂の改修促進をと氷上、春日両町議で合同委員会開く　（2・8）

○柏原町住新町団地が完成　四月から入居　（2・12）

○春日町黒井の黒井城跡の整備を！北摂・丹波の祭典のメーンに大手門復元委が発足　（2・15）

○丹南町長選豊富な行政経験を期待されて杉本氏が無投票当選　三期連続無投票選挙　（2・19）

○篠山町特別職給与などアップ　審議会が答申提出　（3・1）

○市島、春日町をトップに新予算審議　春日町総額は四十億一千万円　春日中に武道館増築　（3・5）

○市島町明るい選挙でアピール　陣中見舞の自粛を！　（3・5）

○市島町一般会計は二十六億　郡最大の愛育館建設　（3・8）

○丹波十町の予算案そろう　総額は四百七十四億六千万円　祭典に向け健全型

丹南町祭典関係費に力こぶ　一般会計は二十五億円

篠山町生活環境の整備を　総額は九十六億四千万円　（3・12）

○杉本春日町長が引退表明　懸案事業完成で決意　町長選は〃無風〃も　（3・15）

○県立柏原病院は民活導入で患者サービス向上へ　医事業務を専門の会社へ委託　（3・26）

○県議選多紀選挙区で藤井前篠山町長が出馬表明　現職と一騎打へ（3・26）

○市島町で貝原知事らを迎えて三ッ塚史跡公園の完成式　（3・26）

○町政三十周年の山南町は新田園都市構想を打ち出す　百億円かけて下水道網　（3・29）

○丹南町助役に加久田氏、収入役は酒井氏　（4・2）

○統一地方選挙スタート　氷上郡は、

藤原三郎（自現）、村上旭（社現）秋山佐登子（共新）三氏による保革三つどもえ　多紀郡は、植田八郎氏（自現）藤井正一氏（無新）の激戦一騎打ち　（4・5）

○不況条例指定の山南町の丹波漢方の里づくり　工業団地への企業誘致、イタリ山森林公園建設計画を県が承認　（4・12）

○県議選現職の堅陣ゆるがず　藤原（再選）、村上（連続六期）、植田（連続六期）の三氏が勝つ　（4・16）

○市島町公民館長飲酒運転の引責で町長ら三役を減給　（4・16）

○町長、町議選　さあ本番へ　市島町では現職にいどむ吉田照三氏、吉見文雄氏の二新人　春日町は村上照雄氏、野花敏郎氏の新顔同志の対決に　（4・19）

○町長選市島、春日ともに大激戦　三つどもえと一騎打ち　（4・23）

○市島町長は荒木氏再選　春日町長は村上氏初当選　荒木氏　公約実現に全力投入　〃再出発〃へ決意新たに　村上氏　〃対話の行政〃を推進　票の重みかみしめる　（4・30）

○春日町村上町政スタート　公約実現に全力出す　（5・3）

○市島町荒木町長初登庁　町民の模範としての行動を　（5・3）

○新議会相つぎスタート　春日町議長に梶村氏、副議長は近藤氏、市島町議長に松井氏、副議長は中井氏、青垣町議長は足立氏（九期目）副議長に田村氏再選、西紀町議長に田淵氏、副議長は山内氏、山南町議長に後藤氏、副議長は中西氏　（5・10）

○多紀郡活性化を探る　梶原清議員が提唱　開発構想の報告も　（5・14）

○ボタンひとつで異常をキャッチ　独居老人対象に緊急通報システム　県と丹波十町の共同事業　（5・17）

○篠山町が定住促進をめざし分譲宅地十七区画を造成　（5・21）

○市島町に郡内最大級の体育館　観覧席は四百五十　三ッ塚に愛育館建設着手　（5・21）

○氷上町長選有力三氏（田中玲三町長、東野憲三前氷上郡教育委員長、小森健吉町議会議長）の顔そろう　（7・2）

○氷上郡の人口動態　出生八三七人、死亡七五〇人、心疾患が死因の一位に婚姻、離婚ともに減る　（7・12）

○氷上町長に小森氏初当選　（8・13）

○小森町長初登庁　住民サービスを向上　早急に人事異動も　（9・7）

○丹波の有権者数八万六千九二七人、前年比二三九人ふえる　（9・10）

○八代学院大神学部の市島町進出断念か　学校用地利用を検討へ　町の有益利用に協力　（9・13）

○丹波十町全町で黒字決算　財政構造は硬直化傾向　（9・13）

○高齢化の著しい丹波地域　豊かな長寿社会を展望　健康福祉フェア始まる

（9・27）
○氷上市（氷上郡一市）実現に向けて広域行政の地固めを　住民運動に盛りあげる　（9・27）
○柏原町議選やっと一人超の十七人少数激戦で終盤へ　（10・1）
○緊急通報システムが二十四時間体制で運用開始　独居生活の不安払う　（10・1）
○柏原町議選新人がそろって当選　投票率は大幅ダウン　（10・4）
○山南町特別職給与をアップ　町長五十八万五千円　助役四十八万五千円、収入役四十四万三千円　（12・27）

事業

○篠山町は池上に用地を取得　十七区画の宅地造成　坪当たり十六万円で売り出す　（1・11）
○氷上町清住の達身寺への進入路　観光道路へ整備進む　（1・18）
○篠山町篠見四十八滝を整備　遊歩道や炊事棟など　（1・22）
○「丹波年輪の里」の建設　県が柏原町田路で着手　余暇活動実習の拠点にモデル木造施設の整備も　（1・29）
○市島町は県営土地改良事業として南部（美和地区）で着手　（1・29）
○遠阪川改修工事進み上下流部ドッキング　青垣町で記念行事　（2・5）
○五十八年丹波地区水害　竹田川最後に復旧工事近く完了　（2・5）
○近舞線で歩こう会！　三月一日丹波各町で企画　（2・8）
○六十二年度丹波地域の主事業
丹波文化会館を整備　デイサービス事業充実　丹波年輪の里を建設　たんば田園交響ホールも　篠山産高本館改築へ　柏原病院のリハビリ室増築　（2・15）
○氷上町・柏原町が可燃ゴミを共同処理　ひかみクリーンセンター火入れ式　（2・19）
○石生駅西側開発を推進　まず区画整理事業へ　住宅供給地を展望　（2・22）
○近舞線丹波第二トンネル（市島町上牧大内トンネル）で事故実験　（2・26）
○八代学院大「梶原地区（市島町）進出に変化なし」六十四年開校めざし申請　（2・26）
○市島町三ッ塚史跡公園が九年の歳月をかけ完成　町民憩いの場に開放　（3・8）
○多紀郡四町が共同で広域火葬場を建設へ　場所は丹南町大山下の山林　（3・15）
○丹波路に高速道走る　沿線住民の夢乗せて　丹南篠山口ー福知山間三十一キロ近畿舞鶴自動車道が開通　（3・22）
○五十年の悲願実って県道沼ー市島線の起工式　雨の中峠付近の市島町で　（3・26）
○篠山田園交響ホール着工　祭典のメ

ーン施設に　（3・29）
○市島、氷上両町の要請で五台山に県立森林公園をと関係者が現地調査　（5・14）
○北摂・丹波の祭典に向け〃花の道づくり〃始まる　市島町トップに十四か所　タチアオイなど　（5・14）
○春日インターと遠阪トンネル結ぶ北近畿高速自道車道豊岡線（仮称）県会常任委で県当局が明るい見通しと答弁　（5・24）
○春日ー豊岡に高速道　北近畿自動車道が浮上　国土庁「四全総」試案で提示　（5・31）
○公共、県単土木事業合わせ七十三億円　来春には全線開通の石生バイパス柏原の下小倉バイパスも　（6・7）
○県道下小倉バイパス開通　次は奥野々峠の改修　（7・9）
○丹南町の舗装プラントで〃火入れ〃舞鶴道の仕上げ工事着手　（8・2）
○丹波の六十二年度公共土木事業　道路など二十七か所　大半が北摂・丹波の祭典関連　（10・15）
○北近畿豊岡自道車道の早期実現に向けて丹但の各市町が結束　（10・18）
○石生バイパス（氷上町横田ー春日町坂）完成　待望の城山トンネルも　着工以来十六年ぶり　（12・13）

教育・学校

○柏原高校の修学旅行　長野でスキー実習　（1・29）
○六十一年度県スポーツ選手優秀賞が氷上高女子バレーボール部と山本君（柏原中）に　（1・29）
○揺れる氷上郡教委問題「原点にかえって論議を」「単独教委設置に賛成」の両論　（2・1）
○鳳鳴理数コースで定員割れ　柏原高理数は三人超　出願締め切る（2・5）
○氷上高校四十周年事業の成功をと同窓会　育友会らが結束の会　（2・5）
○氷上高女子バレーボール部が西近畿地区大会で六年連続優勝　三冠めざし全国大会　（2・12）
○柏原高校四月から単独普通科高　商業科三十九年の歴史に幕　（2・15）
○高校入試真剣な表情で解答　鳳鳴で六人定員割れ　（3・19）
○春日町黒井小で校章レリーフを除幕六年生が卒業記念にタイムカプセルを埋める　（3・19）
○教職員の定期異動　氷上で新校長に四人、異動幅は〃中規模〃
　梅垣努青垣中校長、足立文吾春日中校長、河津義幸東小校長、荻野義昭中央小校長、吉見秀夫鴨小校長、藤原保夫西小校長、山内則己竹田小校長、佐竹善雄三輪小校長、村岡正廣佐治小校長、北尾喬後川小校長　（・）
○篠山町内三中学を一校に統合　篠山城跡外への移転が迫られている篠山中学校　（5・17）
○慢性的な定員割れ！　氷上郡の二十二保育園で〃悲鳴〃　（5・17）

○氷上高校はアユの養殖に着手　円形水そうに四千匹　秋口にはカス漬け加工も　（5・28）
○柏原高校吹奏楽部創部二十五周年を迎え式典　OBにプロ演奏家も加わり記念コンサート　（6・4）
○氷上高女子バレーボール部県高校総体で七年連続優勝飾る　（6・11）
○柏高に外国人教師　英語授業の助手で二学期から教壇に　（7・23）
○氷上高女子バレーボール部は近畿大会でV3飾る　高校総体出場へ　（7・30）
○勉強塾は必要か　乱塾の背景探る　（8・6）
○氷上高女子バレーボール部高校総体で連覇ならず惜しくもベスト4　（8・9）
○柏原高ソフトが県民体育大会で優勝宿敵に逆転サヨナラ　（8・13）
○氷上郡教委は氷上町の離脱を認め五町で継続　六町方式十八年で終止符　（8・20）
○郡内高校の学級増の要望書を県教委に提出（氷上郡地推協）　（11・15）
○篠山産高の丹南分校モダンな施設を披露　校舎移転事業が完了　（11・22）
○柏原高で一学級増に　来年度募集定員（四九五人）決まる　（12・10）

産　業

○柏原町商工会は経済活性化の拠点に旧柏原劇場の跡地に会館を建設　（1・8）
○公共施設に〃間伐材〃青垣中体育館内壁材に活用　〃木のぬくもり〃が伝わる　（1・11）
○モミガラマット（固型苗床）の実用化へ　省力化めざす（市島農協）　（1・15）
○柏原町観光協会は十八日を八幡神社の月例祭として大鳥居周辺に門前市をつくる　（1・25）
○昨年（六十一年産）のマツタケは、やはり大不作でした　市場出荷量は前年の三%に　（1・25）
○生産過剰で単価低落　昨年の丹波産そ菜類　（2・1）
○会員から喜びの声！　柏原農協の特産品の直販事業　（・）
○六十一年分農業標準決まる　水稲はややアップ　野菜は総体的にダウン　（2・8）
○林業で都会と交流　西紀町が三カ年計画で活性化事業を展開　木工施設が完成　果樹の契約栽培も　（2・8）
○山南の花き園芸組合が活気ある花の町をめざし積極的に新品種導入　（2・22）
○市島町はぶどう栽培成功めざす　地域農政推進研修会で体験など熱心に聴講　（2・22）
○氷上町地域産業起こし推進協議会は氷上〃カーニバルパーク〃構想をふる里会議で中間報告　（2・26）
○氷上町農協の青空市　主婦らに人気

品物をふやしての声　卸売市場はさらに継続　（3・5）
○丹波農協の〃ピーマン〃一億円突破目標に　（3・15）
○氷上町黒田で集会施設や大型機械導入　転作を営農の中心に　麦、大豆の輪作推進　（3・19）
○市島町勅使で地区有林を利用して紅白の梅苗百五十本植樹　（3・19）
○氷上町商工青年部が討論会　地域意識が強過ぎて長期ビジョンが描けない　（4・2）
○シイタケもバイオ栽培　柏原町南多田の松下恒雄さんが試作　後継者難の農業に画期的　（4・9）
○柏原町商工婦人部は花の名所に育てようと鐘ケ坂でサッキ苗植える　（4・23）
○春日観光農園二十世紀が花盛り　人工交配真っ最中　（4・23）
○氷上工業団地へ進出第一号　兵庫ファー協業組合　ヨーロッパ型公園工場　（4・23）
○市島町大杉ダムと神池にワカサギ三千万卵放流　（4・26）
○西紀町のシャクナゲ村三百世帯が村民に　（4・26）
○春日ナス二十周年迎え記念式　名声高めた品質管理　（5・17）
○山南町和田地域（五ケ野、山本地区）にゴルフ場　地域活性化で受け入れ　（5・17）
○六十一年に丹波を訪れた観光客総数百六十三万三千人　まつりとゴルフが半数　マイカーで日帰り　（6・7）
○門前市の賑わいをと柏原町観光協会で第三日曜日に厄除け市を開く　八幡社の東市庭で　（6・21）
○六十二年産米の予備予約数量減反、値下がりでダブルパンチ　コシヒカリなど増加　酒米、モチ米は減る　（6・25）
県経済連柏原支所調べ
○氷上町は国産材加工施設を建設　丹波材の付加価値高める　（7・5）
○春日町東中地区に大納言小豆の由来書を添えて記念碑が完成　（7・16）
○ナシ観光に〃助人〃「迷路」の建設が進む　春日町野上野で八月オープン　（7・26）
○〃黄蓮せんべい〃新発売　漢方の里のPRにひと役　山南町老人クラブが企画　（8・4）
○良質米指向さらに強まる　高価格品種を導入　（8・20）
○「土鈴」を特産品に　銅鐸からヒントを得た作品（春日町商工青年部）　（8・27）
○台風十二号の影響　二十世紀ナシ落果　オープン前に大被害　（9・4）
○円高不況の厳しい中で求人増　来春卒の高校生（柏原職安まとめ）　（9・7）
○春日町の大納言小豆栽培が百ヘクタールを突破　ブランド化目指す　（9・24）
○丹波マツタケ顔見せ　キロ六万円で

出荷（篠山町農協）　（10・1）
○出た出た！　マツタケ　篠山町大芋地区平年作は望めそう　（10・11）
○篠山町で盛大に〝味まつり〟松茸ごはんも登場　（10・15）
○成松商戦が市島へ　春日町も急テンポ　大型店進出で日ごと激化　（10・22）
○「宿場町」を売り出そう　ヤル気祭りに佐治市街地を飛脚リレー　（青垣町商工青年部）　（10・22）
○各地で産業文化祭　多彩な行事でにぎわう　（11・5）
○市島町十郎野のゴルフ場計画具体化用地買収ほぼ合意　（11・8）
○丹波地区の六十二年産米の作況「98」程度の不作　台風やウンカの被害　限度未達で一農家一袋集荷運動を実施　（11・15）
○丹波の自然が何より　阪神から氷上、青垣へバスツアー　精進料理やイモ掘りも　（11・15）
○春日町国領地区でホビーファーム計画　自然環境生かし活性化　（11・26）
○丹波の黒豆全国へ　贈答品の発送で活気（篠山町で）　（12・13）
○問屋を通じて販売　約百トンの丹波大納言小豆出荷（春日町農協）　（12・20）
○西紀町シャクナゲ村民にしめ飾り黒豆を発送　（12・24）

社会・文化

○篠山ＡＢＣマラソン早くも四千人が登録　前回上回る勢い　（1・8）
○青垣町の二〇〇一年日本画展　若手作家の登竜門に　全国から作品公募（開催は十月十八日）　（1・8）
○正月ざっと五千人！　首切り地蔵尊に受験生が続々と参拝　（1・11）
○丹南町の「初田館」の発掘調査　呪符木簡や羽子板など　下層には古墳時代の集落？　（1・15）
○篠山署管内の交通事故の概況　死者は最悪記録　（1・18）
○氷上町油利で二十五年ぶりに行事復活　「とんど」で村おこし　ぜんざいやおでんも　（1・18）
○旧制柏原中学校出身の上田三四二さん「歌会始」で選者に　（1・18）
○氷上盆地は湖沼状態だった　二万年前～三万年前の泥炭層　（1・22）
○氷上町石生ロイヤルクラブが秋田県から千代田池にオオハクチョウを放鳥　（1・29）
○丹波布の継承者足立康子さん（青垣町）に県文化協会のふるさと文化賞　（1・25）
○春日町の国領温泉がいま阪神間で人気上昇中　北摂・丹波の祭典を前に素朴な温泉に脚光！　（2・1）
○篠山「青山歴史村」を整備　武家門の移転修復など　（2・1）
○肝機能に注意信号　三人に一人が「異常」　山南町の総合検診のまとめ　（2・1）

○青垣町社会福祉協議会の独居老人給食サービス　ボランティアが活躍！雪の中を昼食届ける　（2・1）
○遠阪小全校生が独居老人を訪ね交流子どもからは贈り物　（2・12）
○姉妹都市のケント市長が柏原町へ産業、文化面でも交流を　柏高の関係者とも懇談　（2・15）
○柏原町の厄除け大祭にぎわう　二日間で十万人の人出　（2・19）
○篠山の青山会の土蔵から国宝級の起絵三十三体発見　（2・19）
○篠山町役場跡の発掘　武家屋敷の馬出しの規模解明　（2・26）
○古切手どっと！　柏原町婦人会が集める　福祉事業啓発資金にあてられる　（3・1）
○春日中の足立教諭がいじめ問題などを見据え詩集「波」自費発行（3・5）
○高小卒でトップの座　市島町出身の荻野五郎さん　精密ベアリングメーカーミネベアの社長に　（3・8）
○高齢者世帯など対象に丹波婦人生活大学が調査「余生はホーム」二十五％心身疲れる寝たきり老人の介護　（3・12）
○青垣もみじの里健康マラソン十周年に向けてハーフマラソンを計画　（3・12）
○篠山ＡＢＣマラソン日本一の大会に成長　一万一千人が参加　雪の丹波路走れ、走れ　（3・12）
○丹波文化会館で丹波の拓本展開く捨女や虚子など三十点　（3・15）
○王地山焼の復興へ　新たな観光資源として篠山町が工場建設　青年陶芸家招く　（3・22）
○印鑑で悪霊ばらい…　丹波生活科学センターに霊感商法で相談　（3・22）
○柏原町西楽寺では「捨女の間」を改修　天才女流俳人しのぶ　（3・29）
○柏原の八幡神社で室町期の能面見つかる　迷の大光坊幸賢作？　能面史上重要な能面師　（3・29）
○八十七基の文学碑収録「丹波のいしぶみ」由良琢郎西脇高校教諭監修二百五十ページで一冊千二百円　（3・29）
○八幡神社の能面を中村保雄教授が鑑定し大光坊作と断定　秀吉が寄進したもの　政治史上も貴重な能面　（4・2）
○篠山城跡周辺で盛大に〝さくら祭り〟はじまる　（4・5）
○氷上町でさつき杯卓球選手権　三百人が熱戦を展開　三田、綾部からも参加　（4・5）
○心身障害者の自立を　働く場に共同作業所を氷上町に設立　雇用場確保に期待　（4・9）
○三十三年ぶりに〝観音像〟春日町多田の円光寺では初公開　盛大に慶讃法要営む　（4・9）
○ドライバーはヒヤヒヤ　舞鶴道にタヌキ飛び出し注意の警戒標識　（4・9）

○コブシの花が満開　春日町舞鶴自動車道の名所に　（4・12）
○陶の里今田町で六古窯作陶展　〃グループ窯〃が企画　現代作家の作品一堂に　（4・12）
○山南町川代公園でサクラまつり　特設舞台ではカラオケ大会　子どもは篠山川で魚つかみ　（4・16）
○古舞台で桜下の宴！　春を彩る〃篠山春日能〃　（4・16）
○桜祭り大にぎわい　石生水分かれをPR　バザーや琴演奏も　（4・16）
○冬の置きみやげ　氷上郡の主要道整備に五千万円　（4・19）
○稲畑人形を飾って主婦が手料理で昼食　春日町上三井庄で伝統のひな祭り　（4・19）
○柏原町が赤ちゃんに記念樹　健やかに育ってね　（4・23）
○幻の修学旅行が実現　崇広小昭和二十一年卒業生　四十一年ぶりの再会　懐しさに話はずむ　（4・26）
○氷上町の加古川で米国原産の魚を発見　バス科の淡水魚ブルーギル　（4・26）
○氷上郡教委の国領遺跡調査進む　室町時代の柱穴確認　（4・30）
○高額納税者は三十七人、うち二十四人が医師　一千万円以上昨年比では五人増加（柏原税務署管内）　（5・3）
○春日町黒井で盛大に黒井城跡の集い　山頂へ親子連れ六千人　鎮魂黒井おどりも　（5・10）
○丹南町の同好会「古都風丹波面」を製作　特産めざし展示会　（5・10）
○クラシックバレエ芽生えて十年！　武内バレエ学園上月みのりさんが柏原でリサイタル　練習生総参加で本格派　（5・14）
○松尾源三さん逝去　氷上西高の基礎作りに貢献（柏中・柏高元教諭、氷上西高初代校長）　（5・14）
○六十一年度事業の苗木置きざり　市島町のずさん管理に批判　（5・21）
○〃禅〃の心にふれよう　中、高校生らも参加　氷上町円通寺で座禅の会　（6・4）
○山南町常勝寺の林道から草花紋入り古丹波が出土　平安末期の完形品　（6・11）
○高齢者の能力を活用　柏原町シルバー人材センター　七月一日に設立総会　（6・14）
○大阪氷上郡友会が和やかに楽しく総会を開く　秋に市島へふる里訪問　（6・18）
○丹南町の円墳発掘で直刀など三本が出土〃銘〃の確認に期待　（6・25）
○春日町長王の舟城神社〃天王さん〃にかつての賑わいを夢みて自動車参道　牛の減少で時代即応　（6・28）
○篠山城跡二の丸北の石垣復元が完成　築城当時の姿に　（7・2）
○丹波杉谷焼を紹介　中信石生支店で佐伯幸胤さんの作品展　（7・9）
○春日町国領で縄文草創期の石器工房

跡　近畿地区では初めて　有舌尖頭器など出土　（7・12）
○祭典に向けて！　丹波婦人の船五百人参加で出航　（7・12）
○西谷渓谷で星を観察　大気保全へ関心高める　山南町は環境庁のコンテストに参加　（7・30）
○加古川のルーツ〝氷の川〟下り！　氷上町が計画　手作りいかだで競う　（7・26）
○丹波各地の川裾祭り賑わう　（7・30）
○丹南町一印谷地区で須恵器の窯跡（六世紀）発見　工人（技術者）の住居跡も　（8・23）
○ＪＲ駅に差別の落書き　下滝、久下村の二か所　山南町が「悪質」と柏原署に告発　（8・27）
○丹南町の園田さん　藩校の教科書六百冊を篠山歴史美術館に贈る　（8・27）
○丹波の百歳老人は四人　最高は中村たつさん（百一歳）八十八歳以上は八百十九人に　（8・30）
○古市焼の完形品発見　精巧な青磁の盃台　（8・30）
○氷上町谷村で行く夏惜しみ八朔大祭にぎわう　（9・4）
○氷上町氷上で古墳時代から平安時代の須恵器を大量採取　郡衙の可能性高まる　（9・7）
○根強い男尊女卑的風潮　家庭で男性の協力欲しい　氷上町婦人会員対象の意識調査　（9・10）
○江戸期から続く〝風の願〟九月一日に祈とう　市島町市の貝、福知山市室の両地区に伝わる行事　（9・10）
○ハーフマラソンが人気兵庫青垣もみじの里健康マラソン　十周年で申し込み続々と　（9・17）
○篠山町河原町通り電柱撤去　妻入り商家群の町並み保存へ第一歩　（9・20）
○柏原町の名木大けやきを大治療　枝を整えコケ落とす　（9・24）
○柏原八幡神社に雨情直筆の歌碑建立　柏原小唄の一番刻む　（9・24）
○山南町岩屋の有志がすばらしい秋祭りを贈る　子らへ太鼓みこし　二十五年ぶりに復活練り込み　（10・4）
○二〇〇一年日本画展が開幕　地域文化振興めざす　青垣町大賞など四十九点を展示　（10・18）
○山南の村上さんが常岡文亀画伯の絵を柏原町へ寄贈　帝展出品の大作「ひまわり」　（10・25）
○盛大に丹波篠山しし祭り　名物ボタン汁が人気　（10・29）
○東西天目山の交流を　山和村（山梨県）から青垣町へ　（10・29）
○丹波古陶館に柳宗悦書の石碑建立　古丹波への愛着偲ぶ　（11・1）
○豊かな文化見直して　丹波布や立杭焼など特産物も一堂展示（県立丹波文化会館で）　（11・1）
○兵庫・青垣もみじの里健康マラソン

十周年記念大会　町ぐるみで盛りあげる　（11・5）
○市島町岩戸の八十一歳の高見さんが農業の振興をねがって町へポンと一千万円　（11・8）
○活溌に郷土の若者育成　関西郷友会総会を開く　会員は四百十七人に増える　（11・12）
○柏原町秋のふるさと祭り「わが町」を上空からと百三十人がヘリで遊覧飛行　（11・19）
○人気呼んだ飛脚リレー　宿場町の伝統のこす（青垣町）　（11・19）
○期待集め親子展　柏原で常岡文亀画伯展　東京では幹彦個展　（11・15）
○黒井城跡を公園化へ　住民や中学生が協力　（11・22）
○柏原町の磯尾さん丹念に竜の置物彫る　正月までに五十体　（11・26）
○春日町の北摂・丹波の祭典イベント「ふるさと丹波絵画展」作品を全国公募　（11・29）
○篠山城跡北堀端の町道に緑の遊歩道を設置　（11・29）
○車の無施錠が目立つ　全体的に農家が不用心とパトロール結果　（12・6）
○ＮＨＫのゆく年くる年で放送　篠山春日神社の元朝「翁」の神事（12・6）
○柏原町の丹波年輪の里に「丹波県民の森」つくる　記念植樹を公募　（12・10）
○六十三年丹波十町の新成人は一千五八四人　前年より二八三人増　（12・24）
○こんばんワ、タヌキです　毎夜訪問し藤原さんと仲よし（山南町谷川）　（12・27）

ホロンピア'88に向けて

＝開幕二百日前各市町の表情＝

〔1〕丹南町
「食と緑博」の成功を起爆剤に

〔2〕西紀町
〝健康と福祉の里〟へ活力ある高齢化社会

〔3〕柏原町
活気ある町づくりを　〝祭典〟を契機に真剣に

〔4〕吉川町
町史初めての大事業　総合中央活動センターに工費二十億円投入

〔5〕市島町
国際交流で村おこし　福祉の町に愛育体育館

〔6〕青垣町
文化の町に「学びの館」全国公募の日本画展も

〔7〕篠山町
歴史的に都市を検証　都市と人間の関係探る

〔8〕春日町
文化ホール（仮称）を建設　深尾須磨子生誕百年祭も

〔9〕氷上町
日本一低い分水界を柱に観光ルート整備進める

〔10〕今田町

大丹波焼展を中心に若手の「六古窯展」も

昭和六十三年一月一日特集号

○「ホロンピア年」幕明け
四月十七日開幕　田園文化都市への出発　イベント目白押し
舞鶴自動車道三月に全線開通

○年のはじめ心新たに
農政と衆員定数抜本改正を　佐々木良作氏（衆議院議員・民社党常任顧問）
福知山線の複線化ぜひ一日も早く
梶原　清氏（参議院議員）
丹波の未来を描く
中西一郎氏（参議院議員）
生き生き丹波を築いていくために
谷　洋一氏（衆議院議員）
丹波を強く印象づけよう
西山敬次郎氏（前衆議院議員）

○'88祭典ステップに丹波活性化の道は
雇用、複線化、農業、丹波の森、リゾート、一郡一市など意見百出の座談会

○故郷への年賀状
子供に楽しい思い出を
田　季晴（伊丹市）
誇りうる故郷よ　大森一雄（西宮市）
「生涯回帰すべき憧憬の地」
丸山哲郎（宝塚市）
老残猶存憂国志
佐々木盛雄（東京都）
〃望郷の願い〃抱く
足立源治（東京都）
郷土訪問で再認識
矢島照一（西宮市）

お便り・短信

足立　治氏（青垣町杉谷）
田舎の友人から栗が届いた。早速たき込みご飯や茹でたりして頂いた。近所にもお裾分けした。幼な友達とは有難いものだ。年を取れば取るほどいいものだと思う今日このごろである。
古里の味懐かしき栗ご飯
（61・10・28）

足立（山本）美都子さん（柏原町）
友人（上村愛子さん）のお名前を拝見し、当時をなつかしく思い出しました。ますます内容が充実し、読みごたえのある十八号でした。来年はどんな「山ざる」が送られて来るかしらと、今から楽しみです。たまにしか帰れない郷里のことをいろいろ知ることができて、ほんとうにありがたいと思っています。（62・6・15）

飯田光雄氏（青垣町）
「特集　わが青春のふるさと」は忘れかけていた言葉や風景や友達などを想い出しながら、楽しく読ませていただきました。（62・7・1）

泉（大野）睿子さん（柏原町）
今年はギリシャ、イタリアを旅行し、古代文明を撮影してきました。陽気な

地中海気質に触れ、意気投合し後髪をひかれる思いで帰って来ました。来年はどこへ行こうかと検討中です。（62・6・4）

稲次悌二氏（氷上町）

東京を中心とする関東地区で見直すほど立派な郷土誌があることに〃山ざる〃の並々ならぬ伝統を感じております。（62・6・4）

上村（山脇）愛子さん（柏原町屋敷）

山ざる十八号の荘様、林田様の文中に山脇伝太郎校長と出ていますが、私が生れる前に亡くなった私の祖父です。話はいろいろと聞いていましたが、お心に残してくださっているとは感無量です。私の父（山脇俊男）は柏中第十九回生ですが、長男の嫁の祖父が第十八回有田喜一様と同期の保井克巳氏です。偶然最近になって解り、気性の良いのはおじい様ゆずりかと喜んでいます。（62・6・15）

小田知尊氏（丹波新聞社社長）

会誌全般に郷土愛の情念を感じます。郷土訪問バスツアーの日程が決まりましたら早い目に知らせてください。（62・6・5）

音無（山本）多美子さん（春日町黒井）

常岡先生のおみごとな桜花の表紙画に、もう心は故郷の春に入り込み、一ページ一ページ丁寧にめくり十八号拝見致しますうちに、丹波のふところにどっぷり浸っている自分に気付き、私は根っからの丹波人やナーとしみじみ感じさせてくれる山ざる誌。ありがたく感謝申し上げます。

郷友会のためお尽しになって御逝去なさいました方々に、心から御冥福をお祈り申し上げ、何卒後輩を見守り給えと祈り上げます。（62・6・9）

近藤田治氏（春日町東中）

六十一年十二月末財団法人全国食生活改善協会を退職、本年一月から長男の経営する土木建築業を手伝っています。

〒245　横浜市泉区中田町三、三三三

㈱近藤興業

☎〇四五ー八〇三ー六八三九

（62・7・3）

酒井　昇氏（柏原町）

昭和五十年四月に社会人となり東京に勤務、五十四年九月人事異動により新潟へ転勤、五十六年十二月結婚、五十八年長女、六十一年次女をもうけ、六十二年四月人事異動にて七年八ケ月ぶりに東京勤務となりました。通勤時間六十分、大都市より地方都市が合っているかも……（62・6・30）

須原　清氏（市島町下竹田）

幹彦氏の表紙アデヤカです。画面もにぎやかに「山ざる」もすっかり成長しました。（62・6・3）

杉上能章氏（氷上町清住）

昨秋はほんとうに久しぶりに京都府北部から兵庫の北部、それに六甲まで旅の機会に恵まれました。

天の橋立、舞鶴それに出石で食べたそばのおいしかったこと。和田山から生野へぬける沿道では松茸を売っていました。六甲山には四十四年ぶりに登って参りました。十八号には柏高への三年間の通学路である水分れ橋が載っており、大変なつかしく嬉しく思いました。（62・7・13）

田中（門田）芳子さん（山南町梶）

この度山ざる十八号をお送りくださいまして誠にありがとうございました。まるでなつかしい人に逢ったような心地で嬉しく拝見させて頂いております。

ご指名をいただき、身のほど知らずと思いつつ、お送り申し上げましたつたない私の思いを披露して頂き誠に光栄に存じております。

御会のますますの御発展と会員の皆様方の御健勝をお祈りしつゝ一言お礼まで。（62・6・9）

竹内　健氏（氷上町方町）

世の人の好みはさまざま。「猿が可愛い」という人もいる。だが私は嫌いだ。外敵をおそれてキョロキョロと直ぐ歯をむく面（ツラ）と赤い尻がいやで、子供の時も動物園で猿山は避けて通った。自身の姿の投影と見るせいか？

誰が作ったか「花のお江戸で芝居する…」という自虐的な唄がある。屈折した心根がさもしくていただけない。（立派な先輩達が輩出しているのに）

丹波人にもっと素直でおおらかなあだ名があっていいはずだ。（62・6・18）

前田和秀氏（柏原町）

六十二年一月一日付で防衛医科大学校学生部長に転勤し、六十二年三月十六日陸将補に昇任し現在学生に対して、「思いやりのある医師、幹部自衛官」になってもらえるよう指導しております。競走（ｽﾎﾟｰﾂ）の社会を歩いている若者にとって一番欠けている部分であろうと思います。（62・6・12）

安井俊夫氏（山南町）

私は祖父が柏原町北中、祖母が上久下村阿草出身で、第二次大戦中の疎開で上久下小、上久下中（現山南中）、柏原高と八年間を丹波ですごしました。柏原高は商業科で学びましたので、今回廃止と聞いて残念でなりません。（62・6・8）

◉お便りをお待ちしております。近況、ご感想、ご意見等、どうぞお気がるにお寄せください。次号に掲載いたします。

宛先＝102　東京都千代田区神田小川町一ノ11・DMSビル内
関東氷上郷友会『山ざる』編集部

◆エレクトロニクスパーツの専門商社◆

株式会社 三　誠

東京都文京区湯島2-24-13　(834) 3171（代表）

取締役社長　足立　誠一

☆主要取扱メーカー

日本航空電子工業株式会社

多治見無線電機株式会社

株式会社フジソク

日本開閉器工業株式会社

ライン精機株式会社

本多通信工業株式会社

Sonnenschein

美味無比 木の実酒

栗の三年酒

◆丹波焼壺詰（1、500000ml）
◆徳用びん詰（3500000ml）

この木の実酒「小鼓くりの三年酒」は、純粋の丹波産栗の実、梅の実など山野の木の実を原料として秘醸したもので、常用すれば胃腸を整え健康と美容と活力を増進します。
ストレートでお飲みいただきますと、さわやかな梅の香りがひろがり、あと口にはコクのある栗の味が残ります。

お正月のお屠蘇には、縁起のよい「小鼓栗の三年酒」をお用い下さいキット好評です。

小鼓の西山酒造場
氷上郡市島町中竹田代
電話（〇七九五八）⑥〇三三一

建築材料販売工事

建設大臣許可 第1834号

中央建材工業株式会社

常務取締役
東京支店長　**荻　野　　武**

（市島町出身）

本　　社　名古屋市千種区高見1－6－1
電話　052（761）6181（代表）

東京支店　東京都中央区銀座7－14－3
電話　03（543）8106（代表）

大阪営業所　大阪市西区江戸堀1－8－15
電話　06（443）6665

仙台出張所　仙台市高松2－11－15
電話　0222（73）5724

札幌出張所　札幌市中央区南一条西7－12
電話　011（271）3961

新潟出張所　新潟市米山5－1－25
電話　0252（45）1705

松本出張所　松本市野溝木工1－6－58
電話　0263（25）0351

広島出張所　広島市西区中広町1－4－16
電話　082（291）3780

丹波茶・宇治茶の御進物 御贈答に

明日香園の健康銘茶を！

《明日香園のオリジナルブランド》

ウーロン茶の缶ドリンクがただいま大好評です

各種御注文は本社工場にて直接承っております

よろしく御用命下さいませ

創業明治四年

伝 統 銘 茶

株式会社 明日香園

代表取締役社長 池畑豪士郎

本 社

東京都千代田区九段北２－３－２　TEL(０３)265—2579

本社工場(御注文承り先)

兵庫県氷上郡柏原町南多田3146　TEL(0795)72—3588

直販店

西武百貨店池袋本店Ｂ１　TEL(03)981-0111(内線)2044

大菱印刷有限会社

田中　寛

〒110 東京都台東区台東1－27－5　大塚ビル

☎03－833－1595

REWARD®

Onaji Mai Mai®

あらゆるスポーツウェアーのご相談は当社へ

Noble ノーブルスター株式会社

取締役会長　吉住重造

（春日町中山出身）

本社　〒101　東京都千代田区東神田 2—4—7

電話　03（866）9121（代表）

調布市社会福祉協議会理事
調布市豊かな老後のための市民会議実行委員
老人問題研究所

木村　つた江

東京都調布市東つつじヶ丘2—39—5

電話 東京（300）1505番

のびのびベビー・こどものファッション

株式会社

本　　社　〒158 東京都世田谷区瀬田1-22-19
TEL 03-700-3121代表

代表取締役　山本清士

高級婦人服製造卸

つるや産業株式会社

取締役社長　足　立　三　治

東 京 店　品川区西五反田７－22－17
東京卸売りセンター12階
電 話　(03) 494 - 3285～7

本　　社　川崎市中原区新丸子 701
電 話　(044) 722 - 6371（代表）
社長室直通 711 - 3324

南海工業株式会社

社　長　石　亀　義　明
（青垣町出身　旧姓足立）

本　　社：東大阪市大蓮東２－12－４
ＪＩＳ工場：電話　06(721)5454／5455
柏原工場：氷上郡柏原町挙田小字浅川160-1
電話　07957（２)3744

株式会社 近藤写真製版所

取締役社長 近 藤 勇 夫
（国領出身）

東京都新宿区下宮比町8番地
電 話（260）6281番（代表）

株式会社 三 葉 水 道

代表取締役 橋 爪 忠
（氷上町黒田）

千葉県八千代市八千代台西 7—5—29
電話 0474—84—7121番

足立かをる

〒232 横浜市南区大岡4—19 上大岡ハイツA414
電話 045—715—5387番

歴史と共に綴るあなたの人生記録

自分史年表〈らいふめもり〉

■B5判176頁・定価1,800円・送料250円

未来に書きつぐ暮らしの〈べんり帳〉

50年ノート〈Memory21〉

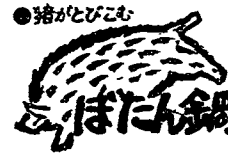
■A5判160頁・定価1,300円・送料250円

株式会社 ホンゴー出版
代表取締役 池田 忍

東京都中央区日本橋茅場町3-3-4坪井ビル
〒103 ☎03(666)1922(代表)
郵便振替 東京 3—144071

城下の面影を残す　奥丹波柏原の宿

山菜料理からアマゴ・ヤマメ・鱒・鯉・鮎・等川魚に始まり
香り高い松茸・丹波牛の肉料理、ボタン鍋



日本観光旅館連盟会員

三友樓　梅垣隆

兵庫県氷上郡柏原町八幡筋　電話：丹波柏原(07957)②1110～2

客室数17室、収容人員60名、駐車場完備、送迎用マイクロバス

東急建設株式会社

専務取締役　芦田重秋

〒150　東京都渋谷区渋谷一丁目十六番十四号
渋谷地下鉄ビル内
電話東京〇三(四〇六)五一一一(大代表)

ヂーゼル機器のカーエアコンは国内はもちろん、世界に気持のよい風を送っています

お子様の学力向上には公文式の算数・国語教室で

足立和巳

自宅　府中市栄町一―一五―二七
電話（〇四二三）六四―七二二七

交通毎日新聞編集部

次長　足立静雄

東京　交通毎日新聞社
東京都港区赤坂二ノ四ノ一(白亜ビル)
電話　六四二―三四一四　番　〒107
札幌・仙台・高崎・横浜・名古屋
大阪・広島・岡山・高松・福岡

足立勲平

自宅 藤沢市鵠沼藤谷一―七―四
電話 〇四六六（二二）六四六一

ミワ電気工事株式会社
代表取締役 足立謙悟
〒220 横浜市西区岡野一丁目八番地八号
電話 〇四五（三一二）五二九一番（代表）

有限会社ミワシステムズコンサルティング
取締役社長 足立謙悟
〒220 横浜市西区岡野一―一三―一三
電話 （〇四五）三一二―五四一八
FAX （〇四五）三一二―五三一三

足立徹

〒155 世田谷区北沢一―三五―六―一〇四
電話 （〇三）五九一―三三八八番

株式会社ニュー東京フーズ
代表取締役 足立卓巳
〒290 千葉県市原市辰己台西一丁目一一番地
電話 市原（〇四三六）七四―〇三八二番

東洋リノリューム株式会社
東京第二営業所 所長 上田脩
〒105 東京都港区虎ノ門一丁目十二番十五号
TEL （〇三）五〇三―六二二一番
FAX （〇三）五〇四―一六一〇番

新明和オートエンジニアリング株式會社
取締役社長 生田清弘
〒230 横浜市鶴見区尻手三丁目二番四号
電話（〇四五）五八二—一五二二（代）
FAX（〇四五）五七一—六一三一

有限会社井上商店
社長 井上和三
三鷹市深大寺三八〇六
電話 〇四二二—三二—三四八八

有限会社 植木紙工所
代表取締役 植木一夫
東京都文京区白山三丁目一ノ十三
電話（八一一）八五七三番
（八一五）八一一六番

小田富士夫

日製産業株式会社
取締役社長 大木正徳
〒105 東京都港区西新橋一丁目四ノ一四
電話（〇三）五〇四—七一一一番

パイオニア株式会社
人事部人材開発課
課長 大西修三
本社 153 東京都目黒区目黒一丁目四番一号
電話 〇三（494）一一一一番（大代表）

下北沢商店街振興組合

副理事　旭　弘

子供服　ア　ヤ　東京都世田谷区北沢二―二四―九
電話（四六七）七四二八

ニューメディアハウス　AYA・SUN　電話（四六〇）七七四七

船舶事業部

参与部長　有田興司

東京支店　東京都港区浜松町一丁目二七番一七号（三和ビル）
TEL（〇三）四三四―七八二一（代）

株式会社ネオス　本社　〒105　神戸市中央区加納町六丁目二番一号
TEL（〇七八）三三一―九三八一（代）　〒650

安達健一郎

〒188　保谷市中町三―三―一三
電話　〇四二四（二二）三四四六

損害保険のコンサルタント
日本損害保険協会
特販（一般）資格　第特一三五八六号

飯田保険事務所　飯田光雄

自宅　四街道市旭ケ丘三―九―二
〒284　電話〇四三四（三二）二三一三

兵庫県東京事務所

所長　今井和幸

〒102　東京都千代田区平河町二丁目六―三
都道府県会館内
電話（〇三）二五一―四二六六

大野善三

自宅〒228　神奈川県相模原市相模台七―二五―八
（〇四二七）四六―八七九〇

日仏交易株式会社
社長　栗田　功
〒160　東京都新宿区西新宿四―三二―六
パークグレースビル四〇三
電話　（〇三）三七四―三〇〇二番

自民党　東京都千代田区永田町一―十一
〒100　電話五八一―六二一一（内）二六五
佐々木盛雄
事務所　東京都新宿区新宿五―十七―六
〒160　電話（〇三）二〇九―三一七六～七番
自宅　東京都新宿区中井二―十一―十八
〒161　電話（〇三）九五一―二八五八番

旭タンカー株式会社
営業二部
次長　田原敏男
〒100　東京都千代田区内幸町一丁目二番二号
（大阪ビル二号館）
電話（〇三）五〇八―一二八一番
テレックス　二二二―五六七七番

NHK文化センター
編成委員　上野重喜
〒107　東京都港区南青山一―一―一新青山ビル
TEL　〇三（四七五）一一五一
FAX　〇三（四七五）一一五八

フジタ工業株式会社　海外事業本部
建築部
建築課長　臼井三訓
〒151　東京都渋谷区千駄ヶ谷四―六―一五
TEL　（〇三）四〇二―一九一一（大代表）
テレックス　FUJITAJ二三五一八／
二四二六六七三FJTKAIJ

日本製薬団体連合会
理事長　江間時彦
〒103　東京都中央区日本橋本町二の一の五（薬業会館）
電話　（〇三）二七〇〇五八一番（代表）
〇五八三番（直通）

埼玉日産モーター株式会社
取締役社長 大西俊治
本社 与野市上落合九三五番地
電話〇四八八(59)五一〇三番(代表)

(株)パンオーディオシステム
代表取締役 岡林逸男
〒330 大宮市盆栽町五一四(押田ビル)
TEL(〇四八六)六五一三六九四(代表)
〒167 東京都杉並区善福寺四一八一一九
TEL(〇三)三九四一六八四四

総合エクステリア
株式会社 大樹
代表取締役 岡吉明
南大和店 和光市南一一一一四〇
TEL 〇四八四(六三)四四二〇(代)
本社 朝霞市膝折三一七一五
FAX 〇四八四(六一)九八〇五

丹波興産株式会社
代表取締役 柿原陽
〒150 東京都渋谷区桜丘町三十一番十五号
住友生命渋谷ビル
電話(03)四六四一一七七一番(代表)

参議院議員
梶原清

同和火災海上保険株式会社
主査 神田敏博
〒103 東京都中央区日本橋三丁目五番十五号
電話(〇三)二七四一五五一一(大代表)
FAX(〇三)二八一一二七〇九

文芸局担当部長（吉川英治全集担当）

小杉仙生

株式会社講談社文芸局
〒112 東京都文京区音羽二―一二―二一
電話東京〇三（九四五）大代表一一一一

日本学士院会員
理学博士

小谷正雄

自宅 〒143 東京都大田区山王三ノ三六ノ四
電話東京（七七一）六六五二

D・M・S ダイレクト・メール・サービス株式会社

取締役
業務推進本部長

坂上勝朗

本社 〒101 東京都千代田区神田小川町一ノ十一
電話 東京（293）二九六一番（代表）

静岡大学教授

坂本重雄

自宅 静岡市小鹿三丁目四―五（〒四二二）
公務員住宅八―二六
電話 〇五四二（八二）八〇五八番

銀座店のご案内

丹波ささ山
山家のお酒

さささ

ぎんざ6―2第13金井ビル2F
電話（五七一）四四二三

須原清

〒164 東京都中野区南台五の三〇の六
電話（三八一）一六二一番

勢川武彦

〒164 中野区東中野二ノ一七ノ二〇
TEL 三六一—八六七六番

田中篤郎

田中寛

〒164 東京都中野区中央4—29—4長瀬ビル

高見産婦人科

医学博士 高見嘉都司

東京都板橋区熊野町四〇番地
電話（九五六）〇六〇〇番

高見歯科

高見幸男

〒176 練馬区錦町二—八—三
電話 九三三—六七三一番

谷垣正雄

東京都杉並区高井戸西一—二四—一七
電話（三三一）一〇七六番

株式会社　環境計画コーオペレーション
取締役　谷口　捷
〒150 東京都渋谷区道玄坂一―一五―一七
プリメーラ道玄坂ビル八〇四
TEL（〇三）四七六―一〇四〇

江南ハウジング株式会社
常務取締役
営業本部長　千種倫幸
〒102 東京都千代田区麹町五丁目七番地
紀尾井町TBR七一二号
電話 代表（二一三〇）三六三一

常岡幹彦

参議院議員
田英夫

東亜国内航空株式会社
整備本部 装備工場
次長　豊島幹雄
〒144 東京都大田区羽田空港一丁目七番一号
空港施設第二綜合ビル
電話 〇三（七四七）六九七五番
座席予約受付（七四七）八一一一番（代）

中井良平
〒272-01 浦安市美浜一五―二一五
電話（〇四七三）五三―八七九一

ザ・カード株式会社
取締役社長 西尾久之
郵便番号 一〇四
東京都中央区銀座二丁目四番一号
銀楽ビル七階
電話東京(03)(561)八〇〇二番(代表)

日本舞踊教授
西崎祥
〒223 横浜市港北区大棚町五〇〇—八
電話 (〇四五)五九一—六六五五
西崎祥舞踊研究所 電話七八一—八六〇三

社団法人日本産業用ロボット工業会
事務局長 小森康宏
〒105 東京都港区芝公園三—五 機械振興会館内二一三号
電話 (〇三)四三四—二九一九(代表)

三和印刷株式会社
代表取締役 早瀬徳郎
〒160 東京都新宿区高田馬場一—一六—三〇
KIKビル2F
電話 (〇三)二〇八—九八一四番(代)

黒川木徳証券株式会社
畑秀夫
本社 〒103 東京都中央区日本橋一—一六—三
電話 東京(〇三)二七八—七八四六番

波多洋三
〒112 文京区春日二—一—一七—二
電話 (〇三)八一一—二八六〇番

日本構造株式会社
代表取締役 古倉克實
〒273 船橋市習志野六―二二―八
電話（〇四七四）六七―七二三一（代）

藤田正雄
自宅 〒215 川崎市麻生区王禅寺六七八―四
電話（〇四四）九五四―四九五七番

船越祥郎
東京都昭島市郷地町五四九―一四
電話（〇四二五）四四―五九九七

都営八王子霊園・東京霊園正門前
青葉山真照寺住職 堀井隆川
〒193 東京都八王子市元八王子町三―二三九七
電話（〇四二六）六三―八四〇三

エクステリア専門商社
株式会社 大洋
代表取締役社長 松下文雄
本社 〒351 埼玉県朝霞市膝折三―七―五
電話（〇四八四）六六―一五五一（代）

非破壊検査株式会社
常務取締役 水船隆昌
東京都中央区八丁堀二―一三―四
（第三長岡ビル五F） 〒一〇四
電話 〇三（五五三）七〇五一代表

東洋ゴム工業株式会社タイヤ営業所

三宅良夫

〒151 渋谷区千駄谷四―二四―一五
自宅〒145 太田区南久ヶ原二―四 久ヶ原ホームズ五〇一
電話（〇三）七四五―四二七八

宮野近

曹禪寺

村上悟悠

東京都大田区池上七丁目二二番十号
電話 〇三―七五一―〇六七八番

ブライダルファッション
（株）シャルム商会

常務取締役
東京店店長 村上昇

東京店 〒164 東京都中野区弥生三ノ五ノ三
電話（〇三）三七四―〇二一五（代）
本社 〒604 京都市中京区間之町通竹屋町上ル大津町六四五
電話（〇七五）二二二―〇二一五（代）

株式会社高野建築設計事務所

企画室室長 村上善英

〒113 東京都文京区本郷二―九―七 三好ビル5F
電話 （〇三）八一三―七六〇一（代）
FAX （〇三）八一八―六一五五

エイ・エム・ティ株式会社

張ったり、制限のこと。

取締役社長 百木雅崇

東京都港区浜松町二ノ三ノ二三 ワクダビル
電話（四三一）三五五一番

大七証券株式会社銀座支店
投資顧問部　安田　功
〒103　東京都中央区銀座四丁目一〇番三号
電話　東京（五四五）九一一一（代）

伊藤忠エレクトロニクス株式会社
国内営業本部
本部長付　山内　隆幸
東京都渋谷区渋谷二丁目一五番一号
〒150　東邦生命ビル7階
電話（〇三）四八六―五九五〇

株式会社　EPDC　インターナショナル
第二火力部長　若森　敏郎
技術士（電気部門）
〒103　東京都中央区日本橋室町四丁目一番五号（共同ビル）
電話（〇三）二四二―五七七一（代表）
二四二―五七九六（直通）

渡邊　圭造

渡邊　勉

渡邊　隆男

交通事故

もし、あなたが加害者だったら……

AIUの
自家用自動車保険

貴方の財産を守る
火災保険から

万一の災害・病気に備えて
生命保険まで

あらゆる保険について　お気軽に　ご相談ください

代理店 **永愛友商事** 代表者 KK前田和市

〒107 東京都港区赤坂3－1－2 AIUビル電話585-0740(代)

編集後記

▲また後記を書く時期を迎えて思うことは、一年の早いことと、いつもながら追悼記事のことです。私も追悼文を書きながら、「山ざる」に追悼文を掲載する人の範囲と申しますか、資格と申しますか、何か標準がないといかんのやないか、と思いました。何かよい知恵をかしてほしいと願っています。

▲一年は早いと申しましたが、総論早く各論はいろいろあると思います。一年のひだの間にはまり込んでいることをあれこれ思い出してください。いつ思い出しても心温まること、二度と思い出したくないようなつらいことなど老若を問わず何かあるものです。そんなことを書きとめて、投稿してください。後になって自分の書いたものにふれたとき、自分の成長の一里塚になっているはずです。

▲いつも話題になる「山ざる老人ホーム論」については、それなりのメリットがあろうという程度で、ソッとしてあるのですが、活発な論議も歓迎します。なるべく多くの方の投稿が望まれるのですが、一言欄とか、はがき投稿とか、アイデアの提案はありますが、要は、長い短いでなく、ペンをとって紙に書き、山ざる誌宛に送る。これさえお願いできればいうことなしです。

▲今年はホロンピア・郷土の祭典とかいろいろ催しがあります。本会もできるだけ多くの方がたの参加を望んでいます。この機会に丹波を訪れ、少年の日の思い出、乙女心の熱い日々、を回想するのも楽しいと思います。

▲皆さんから寄せられる原稿を拝見しながらいつも悩むことは「用字」の問題です。アレッと思うような字があったりなかったりします。挨拶、出来、頃、様、為、事、乍、頂、尚、是・此・之、其、即・則などは、あいさつ、でき、ころ、よう、ため、こと、ながら、いただく、なお、これ、その、すなわち、といずれもかな書きにします。漢字本来の意味に関係のない当て字もいままはかな書きにします。漢字はなるべく常用漢字表にある漢字を、同表に示された音訓の範囲内で使いましょう。また句読点ですが、言葉を区別したいところ、文章を口ずさんでみて、ひと息つくところに打つようにするのがもっとも自然です。編集部でも整理いたしますが、こういう機会にぜひ手なれていただきたいものです。（源）

山ざる　第19号

昭和六十三年四月三十日発行

編集委員　足立源治　足立和巳　大野善三
小田富士夫　小杉仙庄　田中寛
坂上勝朗　田中篤郎　常岡幹彦
鶴田ゆき子　宮野近　渡辺隆男

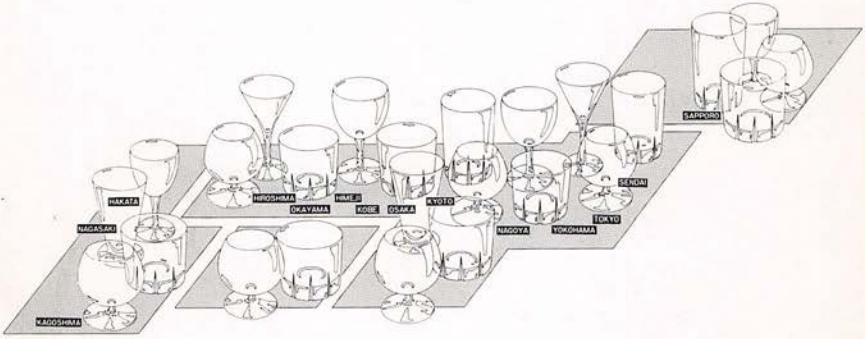
発行者　関東氷上郷友会会長　村上末吉

〒102　東京都千代田区神田小川町一ノ十一
DMSビル内・☎〇三（二九三）二九五五
振替・東京一―一二三一三〇
製作　㈱二玄社

こころざしはパーフェクション

大和実業は常に新しいシステム&サービスで店舗展開をめざします。

エスカイヤクラブを頂点に、札幌から鹿児島まで
全国主要都市をネットする大和実業グループ。
たえず移り変わるニーズに、一歩先じたシステム&サービスで、
常にパーフェクトな店舗展開をめざします。



- エスカイヤクラブ
- ザ・ロイヤル
- 櫓(やぐら)茶屋
- グランドパブ
- ギャルズ
- クラブVO
- VOキューティ
- VOローズルーム
- セブンティクラブ
- ザ・トップクラブ
- ザ・トップクラブ ミュージックサルーン
- 舞妓
- やぐら亭
- スイートクラブ
- ザ・セラーズ
- ラジオシティ
- ザ・ワインバー
- ジェファーソンクラブ
- BAC
- プカプカ
- カフェバー5/6
- やぐら寿司
- 曙
- YAKINIKU HOUSE 298

取締役社長　岡田　一男（春日町三井庄出）

大和実業グループ　大和実業株式会社

本社/〒530 大阪市北区芝田2丁目1番18号 西阪急ビル10階　☎06(372)8571(代)

渋谷代官山町バー・バーズ

提供　㈱商店建築社　月刊商店建築

設計　桂建築綜合研究所

施工　株式会社桂工務店